2016年６月発行　第187号　題字：佐藤　　敬 学長

学園だより

2016年
6月号

June　Vol.187

contents

Ⅰ　巻頭言：弘前大学学長　佐藤　敬　2
Ⅱ　特集　新学期を迎えて　4
Ⅲ　研究室紹介　22
Ⅳ　海外だより　24
Ⅴ　新任教員紹介　26
Ⅵ　けいじばんコーナー　30
Ⅶ　編集後記　30

作品：椿
制作：教育学部学校教育教員養成課程　教科教育専攻３年　村松　韻

Ⅰ 巻頭言
message

新入生の皆さんへ 読書のすすめ

弘前大学長
佐藤　敬

改めて新入生の皆さんに入学のお祝いを申し上げると共に、心から歓迎の意を表します。そして、伝統ある弘前大学の一員となっていただいたことに感謝したいとも思います。

さて、全国大学生活協同組合連合会が最近発表した大学生の生活実態調査の結果によると、本を全く読まないという学生の割合が45％以上ということでした。弘前大学生に関しては、もっと低い率であることを強く願いつつも、あるいは、本の購入に充てる経済的余裕の無いのも理由の一つかと思ったりしますが、皆さんは、いろいろな方法を利用して、是非、読書習慣を身に付けて欲しいと思います。

唐突に、しかも私事で申し訳ありませんが、私が中学生の時、母校（北海道深川中学校）の昼食時には校内放送を聴きながら弁当を食べることが習慣になっていた時期がありました。放送の内容はクラシック音楽と文学作品でしたが、いずれも毎回20分位で完結する短いものだったと記憶しています。今でもはっきり覚えているのは、音楽ではメンデルスゾーンの「フィンガルの洞窟」と、文学作品の朗読では魯迅の「藤野先生」、カフカの「変身」でした。「フィンガルの洞窟」は「フィガロの結婚」と似た題名の音楽として記憶に残っているだけで、特に好きになった訳ではありません。その校内放送の少し前に、たまたま中学校の体育館において、「フィガロの結婚」がピアノ伴奏と日本語の歌で演奏されたのでした。また、「変身」は変な小説と思っただけでしたが、「藤野先生」には強い印象を受けました。実際に読んだのは高校生になってからのことで、緑の箱に入った世界文学全集（集英社）の中の一冊、竹内好訳「魯迅」だったと思います。印象に残っている一冊であることは間違いありませんが、校内放送で聴いた朗読の記憶の方がいまだに鮮明です。

「藤野先生」の朗読は、魯迅が仙台の医学専門学校（当時はまだ東北帝国大学医学部ではなかった）への留学を辞して帰国する際に、解剖学教授だった藤野先生から「惜別」と書いた写真を記念に貰ったところから始まったと記憶しています。実際の小説を引用する方が正確ですが、多少不正確であっても、私の記憶だけを伝え、皆さんの中の一人でも興味を持って「藤野先生」を読んだ上で、正確なところを確認して下さることを希望しています。魯迅は留学中に、日本のニュース映画で中国（当時は清）の状況を知り、祖国を救うのは医学ではなく政治であることを確信し、帰国して革命を指導することになったのでした。まだ仙台医学専門学校の学生

だった頃、「授業は分かりますか？」と言って毎回解剖学のノートを添削してくれた藤野先生のことをいつまでも忘れず、帰国してからも、「怠け心が出そうになると、いつも机の上の藤野先生の写真を見て自分を奮い立たせるのだ」というような言葉で結んでいると記憶しています。

昨今の大学のグローバル化の動きの中にあって、弘前大学のあるべき姿はこのようでありたいと願っています。教える側の都合ではなく、学ぶ側の論理に立って教育を進めるべきで、そして更に言えば、これは大学教育全般に敷衍されるべきことだと思っています。学生のニーズに最大限応える姿勢を「藤野先生」の中に見る思いです。例え基礎学力が多少十分でなかったとしても、そして特に留学生に関しては、日本語能力に多少欠けるところがあったとしても、受け入れられるような、また、受け入れた以上は責任をもって教育できる大学でありたいと願っています。

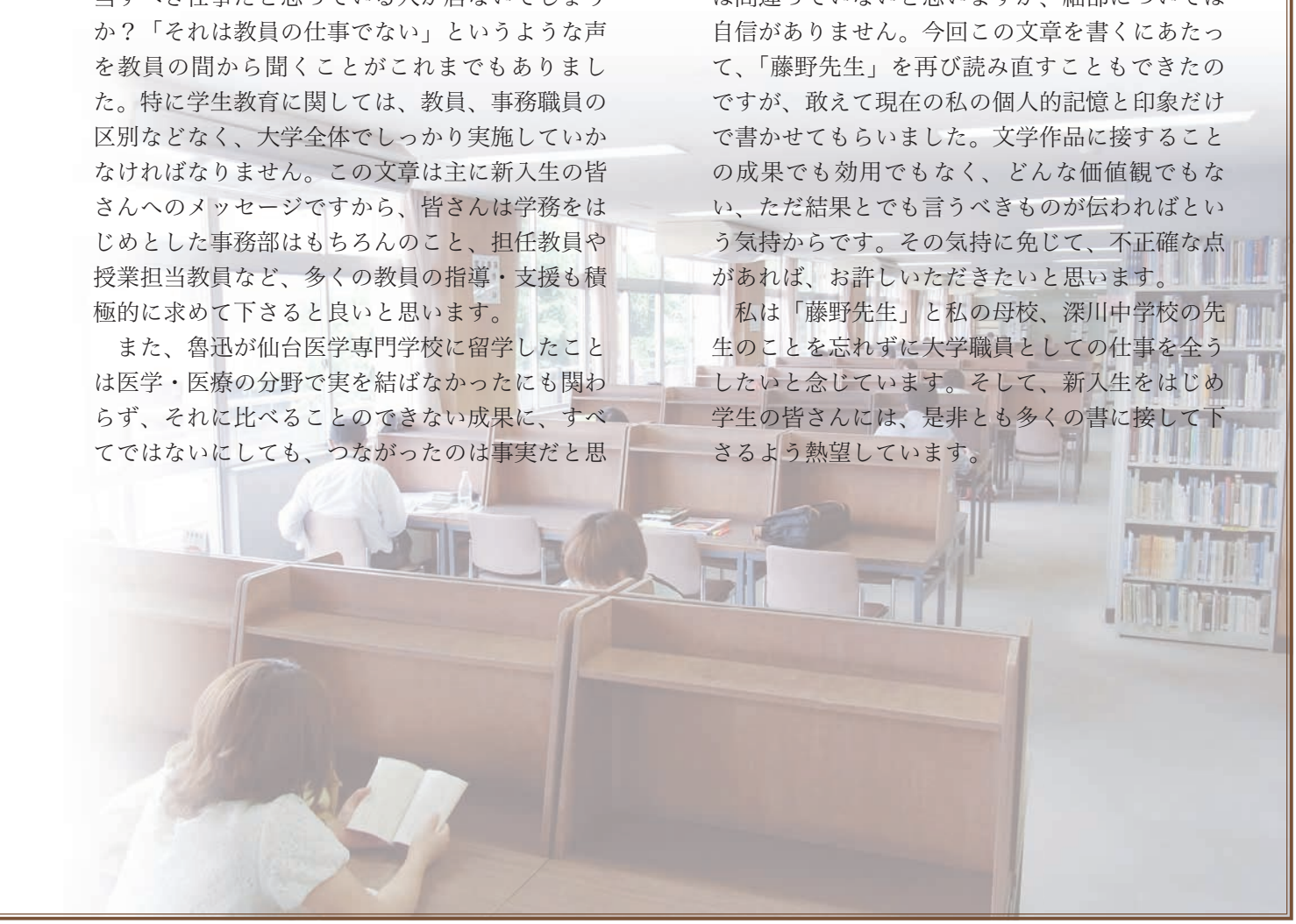
教員の役割はただ授業を行っているだけで完結する訳ではなく、もっと学生の教育全般に心を砕くべきです。私の杞憂であれば幸いですが、教員の一部には、授業以外の学生支援は事務職員が担当すべき仕事だと思っている人が居ないでしょうか？「それは教員の仕事でない」というような声を教員の間から聞くことがこれまでもありました。特に学生教育に関しては、教員、事務職員の区別などなく、大学全体でしっかり実施していかなければなりません。この文章は主に新入生の皆さんへのメッセージですから、皆さんは学務をはじめとした事務部はもちろんのこと、担任教員や授業担当教員など、多くの教員の指導・支援も積極的に求めて下さると良いと思います。

また、魯迅が仙台医学専門学校に留学したことは医学・医療の分野で実を結ばなかったにも関わらず、それに比べることのできない成果に、すべてではないにしても、つながったのは事実だと思います。もちろん、そのような例は他にもたくさんあって、手塚治虫や山田風太郎は医学部を卒業しながら、別の領域で大きな成功を修めた例と言えます。当然ながら、医学に限らず、大学で修めた学問をまったく別の分野で活かしている人の例はたくさんあることに間違いありません。高等教育の本来の姿はそれが自然であって、かつ、その成果は必ずしも定量的に評価できるものではないのでしょう。もちろん、私たちは、弘前大学が当面する現実の課題にしっかりと対処していかなければなりません。しかし、そんな中にあっても、「藤野先生」に描かれたような姿を見失うことがあってはならないと思っています。

私の中学校での昼食時の校内放送は、担任だったことも直接教わったこともなく、お名前も忘れてしまった先生が担当され（堀江先生だったような気がします）、やがては先生の転任で途絶えたと思います。もっと多くの音楽や小説が紹介されたのは間違いないのですが、記憶に残っているのは上に述べた３回だけで、それでも大いに感謝しています。

恐らく、上に述べた「藤野先生」の内容の大筋は間違っていないと思いますが、細部については自信がありません。今回この文章を書くにあたって、「藤野先生」を再び読み直すこともできたのですが、敢えて現在の私の個人的記憶と印象だけで書かせてもらいました。文学作品に接することの成果でも効用でもなく、どんな価値観でもない、ただ結果とでも言うべきものが伝わればという気持からです。その気持に免じて、不正確な点があれば、お許しいただきたいと思います。

私は「藤野先生」と私の母校、深川中学校の先生のことを忘れずに大学職員としての仕事を全うしたいと念じています。そして、新入生をはじめ学生の皆さんには、是非とも多くの書に接して下さるよう熱望しています。



世界に発信し、地域と共に創造する

ようこそ、弘前大学へ

人文社会科学部

多元的な文化理解と現実の課題解決を重視し、地域社会の活性化と文化の創造・発信に貢献します。

人文社会科学部長
今井　正浩

「太陽は日々に新しい」
―新入生の皆さんへ―

新入生の皆さん　ご入学おめでとうございます。

人文社会科学部長の今井と申します。専門は、西洋古典学（ヨーロッパの文化的源流にあたる西洋古典古代の原典を研究する学問）です。よろしくお願いいたします。

弘前大学人文学部は、平成28年４月１日より、人文社会科学部（Faculty of Humanities and Social Sciences）に生まれ変わりました。わたくしたちが新しい学部を設置する目的はきわめて明確であります。人文学部が過去50年間にわたって、北東北地域の人文社会科学分野の高等教育研究の拠点としてになってきた役割を一層充実させることであります。それは、多様性認識のもとで自国の歴史と文化を正しく理解し、地域の文化を含めた自国の歴史と文化を創造し発信する力を養うとともに、地域課題を含めた現実の課題の解決するための実践力をそなえた、次世代の担い手となりうる人材をしっかりと育成していくということに尽きます。

本年４月に人文社会科学部に入学された学生諸君は、新学部の栄えある第一期生ということになります。心より歓迎いたします。

わたくしは、1996年４月に、当時の人文学部の教員として弘前大学に赴任してきました。北国特有の厳しい自然環境の中で、幾多の先人達によって長い年月を経て、脈々と育まれてきた豊かな歴史と文化に深い感銘を受けました。ここで、皆さんに伝えたいのは、青森県の地方色豊かな文化をはじめとして、いかなる文化も短期間のうちに現在のような姿かたちに発展したのではないということであります。「ローマは一日にして成らず」という諺（ことわざ）は有名ですが、今、皆さんが何気なしに立っておられる地面にしても、おそらく、太古の時代から人や物が行き交うことによって、長い歴史を刻んできたという事実があるということです。

皆さんは、北東北の文化の香り豊かな弘前市において大学生活を送られることになるわけですが、先人達が築いた歴史の重みを実感しつつ、真摯に勉学に励んでいただきたいものです。弘前大学は、皆さんのそのような思いにしっかりと応えてくれるはずです。

冒頭に引用した「太陽は日々に新しい」という一節は、紀元前５世紀のギリシアの哲学者ヘラクレイトスの言葉です。わたくしがこの一節と出会ったのは、大学に進学するために、単身、郷里の山口県から上京した年に受講した一般教育科目「哲学」の授業においてであったと記憶しています。朝になると、東の空に昇ってくる太陽も、同じに見えながら、昨日とは異なる太陽である。それと同じように、一見してありきたりで何の変哲もないような日常の風景、単調な日々のくり返しの中に、実は新鮮で驚嘆すべき真実が隠されているということ。朝に目を覚ますと、昨日と同じ自分がそこにいるだけの毎日を過ごしているように思えるかもしれません。けれども、皆さんの一人一人がこの世界にこうして生きているということ、それはありきたりの事実ではなく、それ自体が一つの奇跡（ミラクル）であるということをこの一節は伝えています。

人生に悩みはつきものです。何か問題にぶつかって心が折れそうになったとき、このヘラクレイトスの言葉を思い出して下さい。

皆さんが、弘前大学において、心身ともに充実した学生生活を送られることを心より願います。

各学部長あいさつ

教育学部

確かな「専門の力」と「実践的指導力」を兼ね備えた、地域から期待され他者と協働できる教員を養成します。

教育学部長
戸塚　　学

大学生活での三つの「間」

新入生の皆さん、そろそろ大学生活には慣れましたでしょうか。

あらためて皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

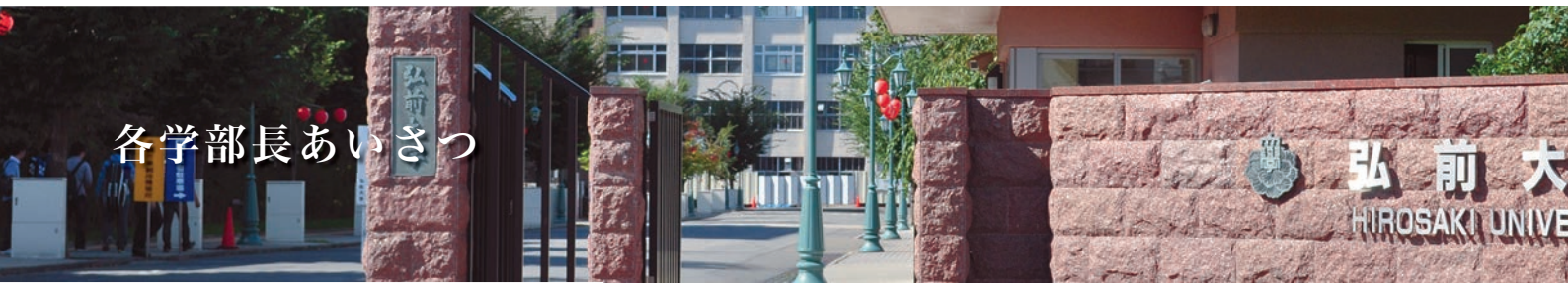
大学生活は、高等学校での生活と異なり、ほとんどの行動を自ら計画し、実行することになります。そして、その行動はより一層の責任を伴います。大学生には自分の行動における「選択の自由」とともに、「自己責任」が課されます。いろいろな場面で、選択が迫られ困惑することも多くなるかと推測しますが、まわりの人の意見や考えを聞いたり、正確な情報の収集を行ったり、自分で考えるための材料を整理し、それをもとに自分で良く考え、より良い選択を行うことが必要となります。早く大学生活のペースをつかみ、自分なりの充実したものにしていただきたいと考えます。

さて、皆さんは大学生活では何を中心に取り組もうとお考えですか？いろいろとあるでしょうが、大学生活のメインはやはり授業です。あらためていうことではありません。大学の授業は、「講義」「演習」「実験」「実技」「実習」等、その専門性を究めるために様々に用意されています。これらは「勉強」から「学問」へ、すなわち、自ら課題や問題意識を持ち、その解決のために自ら探求を行うという意味で、「学問」を進めるためのより良いサポートをする内容となっております。皆さんは授業の中でいろいろなことを学習したり経験したり、また試行したりして、学問を通じて新たな自分の開発に取り組んでみてください。

ところで、学校教育の現場で子どもたちの体力の低下が問題視されてからもう20年近くになりますが、その原因のいくつかは、子どもたちがスポーツをしたり外遊びをしたりする「時間」「空間」「仲間」が減少したことに起因するとの中教審答申（平成14年9月「子ども体力向上のための総合的な方策について」（答申））が出ています。私は、「時間」「空間」「仲間」の３つの「間」の重要性は子どもの体力だけの話ではなく、人間力のブラッシュアップにも必要不可欠な環境因子であると考えます。そして大学は、「時間」「空間」「仲間」の３条件が最も整っている環境であると信じております。大学における多くの「時間」は自分で自由に組み立てることが許されており、その多くを自分のために費やすことができます。また、大学という「空間」は多様な学問的な取り組みや人間形成に関わる活動に対しほとんどのものを許容する空間であり、そのための施設や設備が整っています。そして、そこには目指す方向性が同じ仲間、目指す方向や考えは異なるが同世代の多くの仲間など、一緒に行動したり考えを戦わせたり、そして情報を共有・交換できる「仲間」がたくさんいます。

これからの社会は、これまでの経験や既存の知識だけでは解決の難しい、答えのない問題への対応に迫られます。このような時代の社会では、決められたことを効率よく覚えてこなす人材ではなく、主体的に考えて自ら課題を発見し、周囲と協力して行動できる人材が必要とされます。それぞれのもつ知識や哲学を他人と共有し、そして常に学び続け、学んだ知識を統合し、問題を発見・解決できる力。そして、思考力や判断力、表現力を駆使して、多様な人々と協働する姿勢が求められます。

弘前大学での学生生活、どうかこのことを念頭に、「時間」「空間」「仲間」を大切に過ごして下さい。



各学部長あいさつ

医学部医学科

豊かな人間性と求められる社会的役割の養成、国際水準の基礎的・応用的な医学研究を推進し、地域社会との連携を理念・目的とします。

医学部長
若林　孝一

自ら学ぶ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学医学部は1944年に青森市に設立された官立青森医学専門学校を母体としています。この青森医専は戦災、敗戦により、その存続が危ぶまれた時期もあったのですが、弘前市に移転して命脈を保ち、1948年に弘前医科大学に昇格し、1949年には弘前大学医学部となりました。東北では二番目に設立された医学部であり、約6,000名の卒業生を世に送り出してきました。

さて、皆さんは大学生となったわけですが、高校までの勉強と大学入学以降のそれとを比べた場合、最も異なるのは「自ら学ぶ」ことではないかと思います。皆さんは大学入学以前にも多くの時間を勉学に費やしたと思いますが、その多くは与えられた課題の解決あるいは一定のレベルを超すための勉強であったのではないでしょうか。もちろん、そのような勉強も必要です。しかし、これからは「何が問題なのか」「その問題を解決するためにはどうすればよいのか」を自ら考え、実行することが必要になってきます。

『学問のすゝめ』を著した福沢諭吉（1835～1901年）の人生は波乱万丈でした。21歳の時、蘭学を志し中津（現：大分県中津市）から長崎に行き、オランダ語の手ほどきを受けます。翌年には大阪の緒方洪庵の門に入り、25歳で江戸に出ます。26歳の時、日米修好通商条約により外国人居留地となった横浜へ見物にでかけ、外国人に接してオランダ語が実地の用をなさぬことを知り、落胆するのです。そうでしょう。５年もの間、必死で勉強したオランダ語が役に立たぬことがわかったのですから。しかし、福沢はすぐに英語への転向を決意し、独力で英語を学ぶのです。つまり、学んだことが後で役に立たなくとも、学ぶという姿勢は生きることを示しています。福沢がすすめる「学問」とは「自ら学ぶ」ことを継続することではないかと私には思えるのです。なお、福沢の生涯を記録した『福翁自伝』は自伝文学の傑作であり、特に福沢の青春時代とも言える緒方塾でのエピソードが破天荒でおもしろいのです。そこでは「目的なしの勉強」が重要であることも語られています。

研究も興味深く、一度はまったらやめられません。研究によって物事の深部を知ることができますが、やがて何が明らかになっていないかが、具体的に見えてきます。つまり、最先端のことを研究している人は、「今、何がわかっていないか」を知っている人です。それを解明するために、前に進む努力をするのです。ただ、人間を対象とする医学・医療の場合には、必ずしも思い通りにはゆかないし、予期せぬことが起こり得ます。それに対処するためには、マニュアルではなく、「人間の知恵」を学ぶしかありません。どのような経験も決して無駄にはならないと思いますが、大学に入ったからには「自ら学ぶ」という気持ちを持ち続けてほしいと思います。

人間の体は神秘にあふれています。人体の構造と機能については多くのことがわかっていますが、未知のものも多いのです。さらに、病気の種類は多く、これからも新たな病気が出てくるに違いありません。これまでに先達が積み上げた現代医学を勉強し、さらにそれを発展させることが医師や医療従事者を目指す諸君の使命です。そのためには「自ら学ぶ」こと。医学・医療だけでなく、教室の中の勉強だけでなく、様々なことを学んでください。卒業式では皆さんの大きく成長した姿が見られることを願っています。

世界に発信し、地域と共に創造する

ようこそ、弘前大学へ

医学部保健学科

高度な医療技術と豊かな人間性を持った医療従事者の育成

医学部保健学科長
木田　和幸

新入学生のみなさんへ

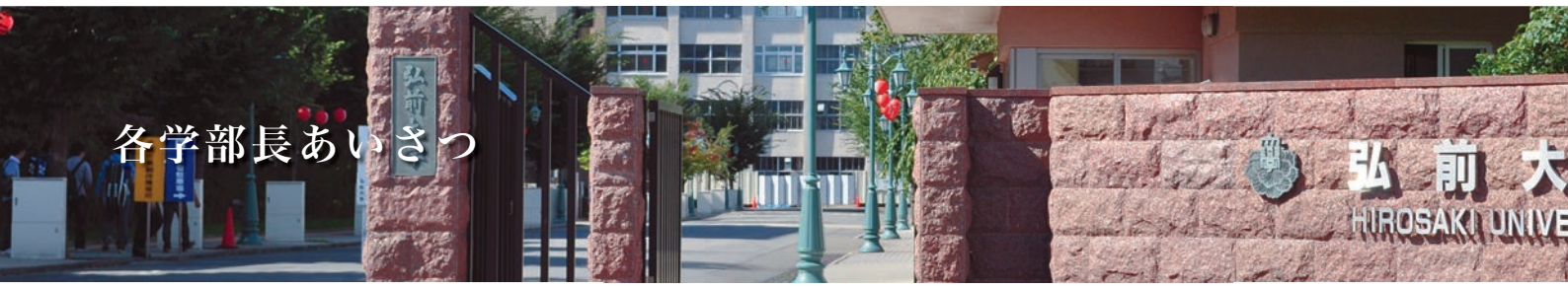
新入学生のみなさん、入学おめでとうございます。皆さんがここに至るまでには、ご家族、友人、先生や関係者から多くの支援を受けたことを改めて思い出すことと思います。これからは新たな出発として、更なる目標に向かって進むことになります。

皆さんは、中学生、高校生、あるいはもっと前からでしょうか、将来の夢を抱いてこの弘前大学に入学されたものと思います。皆さんのなかには、入学したことにより一時的に目的を達成したような開放的な気分に浸った方もいると思います。しかしよく考えて下さい。大学入学は、皆さんが一人一人抱いている大きな夢を現実のものとして少しでも近づけるための通過点に過ぎないのです。時間は瞬く間に過ぎ、既に大学での講義等が開始され、大学生としての生活を開始していると思います。これからの学生生活は、楽しい時、苦しい時などいろいろな場面に遭遇すると思います。その場面の一つ一つが良い刺激となり経験となって少しずつ積み重ねることにより、自分の判断能力を知らないうちにレベルアップすることに繋がっていくものと思われます。その後の学生生活や学生生活後の場で、とても強い力となって発揮されると考えます。より積極的に多様な場面に自分を投じることにより、さらに自分をレベルアップさせることができるものと想像しております。

学生としては、教養をより深くそして広く身につけ、専門的知識技術の修得を目指すことが基本となりますが、皆さんの欲求はこれだけでは留まらないでしょう。自分の興味のあるいろいろな場に参加し、いろいろな人と出会うことと思います。また、それによりいろいろな形での繋がりが生じてきます。このことは後に大きな存在として浮かび上がってくる新たな友達の形成へと発展していくものと思われます。弘前大学に入学した皆さんには、学生として、自分が満足できる充実した学生生活を送って頂きたいと希望しております。

弘前は四季を通して、弘前さくらまつり、弘前ねぷたまつり、弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪灯籠まつりが開催され、岩木山を背にゆったりとした時の流れを感じさせるところです。その周辺の多くの人々は弘前大学の「学生さん」を見つめており、「学生さん」とのつきあいを熟知している方ばかりです。このような状況の中に存在する弘前大学で充実し満足できる学生生活を送り、更なる新しい自分の目標に向かってみては如何でしょうか。

保健学科、保健学研究科は、保健医療福祉の一端を担いながら社会で活躍し、社会に貢献しようとする皆さんの入学を心から歓迎いたします。



各学部長あいさつ

理工学部

地球の豊かな未来をつくるサイエンス＆テクノロジー

理工学部長
加藤　博雄

まずは…

興味を持つこと、好奇心、これは科学を志す者にとって重要な資質です。しかし、最近の学生はあまり物事に興味を示さなくなったという言葉をよく耳にします。確かに講義等での学生の反応はいかにも低調で、知的好奇心が乏しいのではと思うことはあります。一方で学生たちと直接お話をすると、話の随所に興味を持ち突っ込みも入るので、案外そうでもないと思わせてくれることも多いのです。元来、人間は誰しも好奇心旺盛で、先ずは触れ口に入れては確かめる赤ん坊の時に始まり、幼年期も好奇心の塊と言われるほどに行動しては大人たちを振り回します。そんな彼等も大人への階段を上るにつれて知識や経験が増え、未知のものが徐々に無くなっていくことで好奇心は薄れていきます。但し、これは今も昔も変わりない流れで、最近の学生気質を表しているわけではありません。では何が違うのでしょうか。

最初に思いつくのは、情報過多の時代だということでしょう。あらゆるメディアを通じて様々な情報が飛び交う現代の高度情報社会では、程々の情報ならば何の苦も無くネット上で手に入れることが出来ます。（かつては書籍中心で大学や公立図書館に籠もらなければならなかった時代とは雲泥の差です。）様々な分野の話題のトピックスや目新しい事象も次から次へと現れ消えてゆくので、新聞の見出しのみを眺めるように好奇心を満足させていきます。勿論、トレンドを追いかけ興味は次々と移ろうので表層的になるのは必然ですし、皆、似たり寄ったりになります。さらに、正誤のフィルターはかかっていませんし複数の候補が列挙されていますので、取捨選択の苦労と検索テクも付きまといます。選択に窮した結果、辞書と同じく最初に出て来た「らいしいもの」のみを見てそのまま信じるということで満足しているように思えます。興味が浅いと言えばそれまでですが、次々と新しい波が押し寄せる情報の海に溺れまいとする自衛手段なのかもしれません。でも自分が本当には納得出来ていないのに、正解という名の下に信じ込む現実。テストを行えば得点に繋がると信じる正解のみを知りたがり、途中の過程には関心を示さないというのが一般的な現代の学生の姿です。正解もさることながら、途中の過程、考えることこそが未来への鍵だと言ってはいるのですが。

最後に、講義後の質問で「先生のお奨めは？」とよく聞かれるので書いておきます。そんな時、洋酒のCMにあった「ぱっと目についたものでいいんですよ」という言葉を思い出し、そんなもんだと思って答えています。興味を持ったのなら入り口は何でもいいんですよ、取っ付き易ければ。まずは入ってみる！全体像を見ているからといって、初心者に理解し易いものを選ぶ訳ではありませんから。食べ物の好き嫌いと同じで、まずは味見。ペッと吐き出すようであれば親にでもなった気分で工夫を凝らし、じっくり味わわせ、素材が持つ深い味わいを体感させる。まずは何とか入門させ、少しでも興味を持たせられたらしめたもの、後はそれに向かって突き進み解明に挑む、そんな知的探求の道をガイドするのが教員の役割なのかもしれません。飽きさせずにどうしたら少しでも長くと四苦八苦している我々に元気を与えてくれるのは、卒業研究を終えた大半の学生が残す言葉、「先送りにせず、もっと早くから取り組めば良かった。」、「ようやく基礎の大切さが理解出来た。」、「ちゃんとやっておけば良かった。」等々ですからね。

世界に発信し、地域と共に創造する

ようこそ、弘前大学へ

農学生命科学部

生物学、農学、経済並びに工学における実験と実習を重点的に行います。

農学生命科学部長
橋本　　勝

よろしくお願いします

この２月から農学生命科学部長に任ぜられました。これまで、教育・研究のいずれにおいても現場を中心に展開してきた私にとって、学部全体に気を配り、大学発展への貢献を求められる学部長と言う役割をこれまで想像したことも無く、プレッシャーのかかる毎日を過ごしております。今年度から国立大学改革プランの第３期中期目標・中期計画に入り、弘前大学は「地域活性化の中核的拠点」として本格的に動き出しました。第一次産業を中心産業とするこの地域の中で、農学生命科学部はまさに地域貢献に可能性を有する学部であり、またそれが求められる学部でもあります。新たな農産物の育成研究、地域の生み出す食材の付加価値を高める研究、未利用な遺伝子資源の有効活用に関する研究、地域農産物の輸出に関する研究などを展開し、地域経済発展、新たな雇用創出に貢献するべく取り組んでいきます。４月には、改組が行われ、本学の目指す改革の理念「理工学系・農学系人材の育成強化」の下、食品分野と国際フードマーケティング分野で学生定員を大きくしました。これも、地域農業に対する本学部のポテンシャルを高めるものであります。微力ながら、学部の発展に尽くしたいと思います。

さて研究面ですが、以前は「有機合成化学」と言う分野を研究フィールドとしてきましたが、1997年農学生命科学部に赴任を機に、地域微生物の生産する二次代謝物質の研究を始めました。全くの無手勝流であり、多くの時間を無駄にしたとも思います。日本農芸化学会に入会して多くの先生方にご指導をいただき、少しずつ研究らしくなってきました。現在では私の研究のメインとなっています。微生物の培養エキスはさまざまな物質の混合物ですが、その中から成分を純粋になるまで精製し、機器分析を駆使してその構造を決定するのは、本当に楽しい作業です。なぜ、神様は微生物にこのような複雑な分子を作らせるのかと考えていくと、とてもエキサイティングです。帰宅後、スペクトルを説明できる構造が思い浮かんだときは、枕元でそれをメモすることもあります。実際にはなかなか不純物を除けないような問題満載の研究です。そんなときはフラスコに向かって、「お前はどうして欲しいのだ？」と問いかけてしまいます。ふと、妙案が浮かぶときがありますが、フラスコの中から、「こういう操作をすればいいのだよ」と教えてもらえたような気がします。本当に「気まぐれな彼女」のようです。思うようには進みませんが、相手（フラスコの中身）のことを考えてあげると意外と簡単にうまくいくことがあります。以上のように微生物の生産する二次代謝物研究を楽しんでおりますが、最近は、このような微生物を育む津軽地域の豊かさに感心します。夢は、ノーベル賞を受賞された大村智先生のように、津軽地域の微生物から人々の健康に役立つ物質を見つけることです。まだその候補となるものも見つかっていませんが、夢を現実にすべく研究室の学生さんたちとともにがんばっていきたいと思います。また、研究室の学生さんには、卒業研究・修士研究を通して「試行」、「解析」、「挑戦」を行い、その結果「問題を解決する」といった体験をして、社会に出て欲しいと思います。そのためにも研究を楽しむことを伝えたいと考える次第です。

新入生

人文社会科学部

弘前大学に今春入学した学生にインタビュー。これからの抱負について聞きました。
そして先輩たちからは学校生活で経験したこと、伝えたいことを聞きました。

人文社会科学部
文化創生課程１年
浅野　楓

大学生活でやりたいこと

私は、この４年間の大学生活で卒業までにやりたいことがあります。１つ目は、多くの人と交流することです。大学は高校と違って人が多く、入学した当初、周りは知らない人ばかりでした。しかし、この１ヶ月間 で授業や寮生活、サークルなど、たくさんの人と知り合うことができました。たくさんの人が通う大学だからこそ、多くの人と関わることができます。寮やサー クルの先輩方や友人、海外からの留学生との関わり合いの中で、自分の考え方や視野を広げていきたいです。実際にサークル活動では、自分の音楽の幅を広げることができました。そのように、１つの考え方にとらわれず、多角的な視野を身につけていきたいです。

２つ目は海外に留学することです。高校在学時から、日本と外国の文化の共通点や違いに興味がありました。大学では日本と外国の文化や考え方の比較をし、そこから日本の良さについて学んでいきたいと思っています。そのため、外国文化に直に触れ、学ぶために留学したいと思っています。そのために、英語や多言語には特に力を入れて学んでいきたいです。

最後になりますが、私の大学生活を支えてくれる多くの人に感謝しながら、多くのことに挑戦していきたいと思います。

人文社会科学部
文化創生課程１年
内記渓人

能動的に

私は弘前大学での４年間の大学生活を通して、自ら能動的に行動する習慣を身に付けたいと考えています。

大学では様々な講義が開講されており、一学年ではほとんどの講義を自ら選択し、学ぶことになります。

またどの講義も高校の授業のように決められた知識を身につける学習ではなく、答えの決まっていない問題について深く考え、解決策を作るという講義だと思います。

この考えて自ら学習する機会を面倒な課題としではなく、能動的に学習できる機会として取り組むことで、意欲的に学習する習慣を身に付けていこうと思います。

また、学業以外においても弘前大学には多くの部活動やサークルなどがあり、今までは個人のレベルでしか取り組むことのできなかった趣味なども、充実した設備や多くの人々がいる弘前大学なら同じ志を持つ人達とより高いレベルで取り組むことができると思います。

そんな自ら行動しようと思えば様々な環境が用意されている弘前大学で、学生生活の４年間を社会に出るまでのモラトリアムとして過ごすのではなく、学びを深め、主体的に行動し、自主性を育むことができる期間として過ごすことで、その後の人生にも大きな意味を持つ経験を積んでいこうと思います。

人文社会科学部
社会経営課程１年
土屋昇太郎

入学してから思ったこと

弘前大学にいて思ったこと第一が、大学生協のMember's cardが万能すぎるということ。カード一枚で大学内の食堂、コンビニ、本屋、オールコンプリートしてしまうため、それさえあれば大学内では敵なし…と思いきや、二階のレストランでは無力だったが、そこがまたそのカードに愛着をわかせる。

第二は先輩方が新入生に優しいということ。新入生のために先輩方が大学で快適に過ごすための説明会やパーティーを開いてくださり、また、部活やサークルでは新入生が打ち解けるために無料の打ち上げをしてくださるなど、入学の不安も激減しました。

そして、第三は図書館が快適だということだ。館内はWi-Fiが通っているし、ゴミ１つ落ちてないほど綺麗で、また様々な図書がそろっている。レポートを書く上で困ることはない。部活やサークルも活発だが、勉強する人も勿論居心地のよい場所である。

他にも、食堂のご飯は美味しい、講義の内容がとても興味をそそられるなど、良いところは様々だ。もちろん、学生課の方が怖いとか、階段が辛いとか、moodleなどを駆使しすぎてパソコン苦手には辛いだとか、嫌なところもありますが、総合的に見ても弘前大学を選んでよかったと思う。

これから四年間を勉学に励みながら多くの思い出をつくって人生の最高潮といえるほどに充実させていきたい。

人文学部

学生インタビュー 新入生抱負!! × 在学生からの応援メッセージ

人文学部
人間文化課程３年
川口優実

日常のなかで

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学にも慣れ、ちょうど新しい生活のスタイルが確立した頃ではないでしょうか。

大学では実に多様なことが学べます。高校時代と一味も二味も違う大学の講義では、色々な切り口から勉強ができます。初めて出会った人たちと交流する中で、新たな考え方に触れれば、何か得るものがあるでしょう。アルバイトを経験して社会の大変さを知ったり、辛いテスト期間を乗り越えた後は心地よい達成感を味わったりできます。

日常のなかで、学びの機会はゴロゴロとそこらへんに転がっています。「そこらへん」と呼べるほど身近なところに些細なもののふりをして潜んでいます。そして、自分がそれに気づくことができるか、受け止められるかでその些細なものが重要なものに化けるか否かが決まるのです。

だからといって学びの機会を逃すまいと気負うことはないと思います。日々の生活の中で自然と気づき身についたものが、皆さん自身の糧となることでしょう。

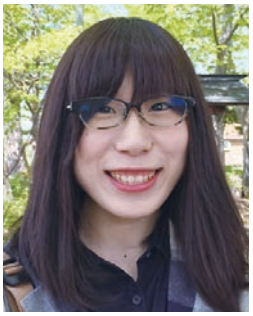
心残りの無いように楽しくエネルギッシュに学生生活を送ってください。多少のムリならば体は耐えてくれます。あくまでも多少です。

皆さんの学生生活が充実したものとなりますように。

人文学部
現代社会課程３年
藤田朋哉

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活いかがお過ごしでしょうか。 大学生活の一番の特徴は、自分の生活の中で自由な部分がとても大きいことです。時間割も自分で組むことができますし、サークルに加入し活動したりアルバイ トをするのも自由です。私も自分がやりたかったことをやるためにサークルを作って代表として活動したり、今までできなかったアルバイトをしています。皆さんもこの自由な部分を使って今までやりたかったけどできなかったことに挑戦してみてください。大学生活は自分の可能性を広げる場だと私は思っています。色々なことに全力で取り組んで自分の可能性を大いに広げていってください。しかし、大学生活を送っていくうちにうまくいかないこともたくさん出てくると思います。そんな時は先輩方を頼ってください。きっと先輩方は親切にアドバイスをしてくれると思います。そして自分が先輩になった時には後輩に優しくアドバイスをしてあげてください。大学生活は４年間ありますがあっという間に過ぎてしまうと思います。やり残すことがないように精一杯楽しんで下さい。皆さんが充実した大学生活を送ることを願っています。



人文学部
経済経営課程３年
山谷理紗

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大変恐縮ですがメッセージを送らせていただきます。

皆さんはセレンディピティという言葉をご存知でしょうか。それは、偶然の出会いという意味です。大学ではさまざまな出会いがあり、そのなかにはいい意味でも悪い意味でも自分の考え方を変えるような出会いもあります。３年生になった私は、様々な出会いによって大学で自分のやりたいことを見つけ、毎日充実した学校生活を送ることができています。新入生の皆さんは入学してから一か月しか経っていないので、まだ大学でやりたいことが具体的に分からない人も多いと思います。でも、安心してください。これからの様々な出会いによってやりたいことを見つけることができる可能性は大いにあります。そのためには、アルバイトやサークル活動をしてみることもいいと思います。また、旅行や留学をしてみるのもいいと思います。

色々な経験をし、数多くのセレンディピティの機会を得てください。きっと、その出会いが充実した学生生活に繋がると思います。これから頑張ってください。

新入生

教育学部

弘前大学に今春入学した学生にインタビュー。これからの抱負について聞きました。
そして先輩たちからは学校生活で経験したこと、伝えたいことを聞きました。

教育学部
学校教育教員養成課程１年
田口慶一郎

理想の教師像

弘前大学に入学してから早いものでもう５週間が経ちました。初めの数週間はこれから大学生活を送るにあたっての様々な基本的な準備（履修登録、介護等体験実習の申し込み、教科書購入etc…）がありましたが、その一つ一つをこなすうちに自分がこれから弘前大学に通うのだという自覚や覚悟が備わっていったように感じます。

さて、私が教員を志したのはこれまで私が実際にお世話になった二人の先生に憧れたことがきっかけです。一人の先生は、自分の信念や正義観を決して曲げず、私を厳しく熱心に指導してくださいました。またもう一人の先生は、国語という専門性の掴みづらい教科を科学的に、分かりやすく教えてくださいました。私はその両先生の魅力的な点を自分が引き継ぎ、次代を担う子供達に伝えていきたいと考えるようになり、教員になろうと決心しました。

そのためにも私は弘前大学教育学部の恵まれた環境を最大限に活用し、自分の人間としての教養を深め、教科に深い関心を持ち、それを追求し、理想の教師像に自分を少しずつ近づけていきたいと思います。

教育学部
学校教育教員養成課程１年
香田拓海

夏休みをどう過ごすか

弘前大学に入学して、早くも１か月が経ちました。少しずつですが、大学での生活にも慣れてきました。履修する科目も決まり、入部する部活も決まり、やっと自分が弘前大学の新たな一員になったという実感が湧いてきます。

僕は、中学生の時から弘前大学に進学したいと思っていました。なので、2016年４月５日の入学式を持って、自分が弘前大学の一員になれたことが、とても嬉しいです。しかし、大学に入学してそれで終わりではありません。僕は、中学校の教員になりたいと思っています。しかし、まだ漠然と「教師になりたい。」と、思っているだけで、『どのような教師になりたいのか』や『もし教師になったら、どのようなことを自分の生徒に伝えたいのか』など、詳しいことがまだ思い描けていません。そういったことを、４年間の大学生活の中で明確にしたいと思います。

『大学は人生の夏休み』なんてことが言われますが、その長い夏休みを、ただ怠けて過ごすのではなく、将来、社会に出てから恥ずかしい思いをしないように、様々なことを学んでいきたいと思います。また、弘前大学の新たな一員として、大学の伝統を受け継ぎ、その伝統をいずれ出来る後輩に伝えていきたいと思います。

教育学部
学校教育教員養成課程１年
齊藤裕汰

新たな一歩

弘前大学教育学部に入学して月日が経ち、大学生活にもだいぶ慣れてきました。入学してすぐのころは、不安ばかりで何も手につきませんでしたが、今では様々なことに取り組むことができています。また、その中でたくさんの人と出会い、これからの人間関係への不安も解消されてきました。

私は中学生のころに教員になることを夢見始め、高校２年生になってそれが夢ではなく目標になりました。その頃、世界史という科目に初めて触れ、その面白さや奥深さに魅了されました。それ以来、先生に教えてもらったように今度は自分が世界史の面白さや奥深さを伝えていきたいと思うようになりました。高校生の頃は受験に向けての勉強だったので、教育学部には歴史の先生はいらっしゃいませんが、歴史の本質や歴史を学ぶ意義を学習していって歴史の知識を深めていきたいです。

私には、目標であり自分を後継者に指名してくださった、尊敬する世界史の先生がいます。その先生は世界史の知識だけでなく、その他の社会科の体系的な知識も豊富にあります。私はまだその足元にも及ばないので、様々なことを身につけ、その先生を追い越し、追い越さなければなりません。そのためにもこの弘前大学教育学部で新たな一歩を踏み出していきたいです。

教育学部
学校教育教員養成課程３年
三浦佳典

Let's Challenge!!!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ようこそ、弘前大学へ！これまでの環境とは大きく変わったと思いますが、大学の雰囲気にはもうなれたでしょうか？

さて、大学での生活は講義やサークル活動、アルバイトなどこれまで経験したことがないような新しいことに満ちあふれています。そのどれもが新鮮で、魅力的で、惹きつけられるものばかりでしょう。そのような最中にいる皆さんに私事で恐縮ではございますが、伝えたいことがあります。それは、「積極的にいろんなことに挑戦・経験してほしい」ということです。大学生活は長いように見えてあっという間です。私も気付けば３年生になってしまいました。いざ振り返ってみると「あの時～しておけばよかったな…」、「～したかったな」と後悔することがたくさんあります。「やらないよりはやったほうがマシ」とはこのことだと思いました。ですから、ぜひ皆さんには悔いの無い大学生活を送ってほしいです。少しでも何かに興味を持ったら、まずやってみるのも良いと思います。新しいことを始めるのも意外と悪くないですよ？せっかくの大学生活なのですから思いっきり楽しみましょう！（もちろん、勉強はちゃんとやってくださいね。）

教育学部
学校教育教員養成課程３年
横田　強

多くの経験を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。５月も過ぎ、今までと違う環境での生活にも慣れてきているでしょうか？

大学生になると講義や部活にサークル、バイトなど、自分で決めることが多くなります。その分、楽しみなことや不安なこともあるでしょう。ですが、ぜひ様々なことにチャレンジしてみてください。私は、大学生の今が最も多くの経験をすることができる時期だと思っています。この経験のなかで、成功は自信に、失敗は責任とこれからの対策を学ぶことができます。これらは、社会に出たとき役に立つはずです。最初は恥ずかしかったり、嫌なこともあるかもしれません。ですが、勇気を出し、積極的に行動することが自身の成長へとつながるはずです。どうしても困ったときは、友達や、先輩を頼ってください。それでわかったことも、また１つの経験であり、大切な学びとなります。

大学生は自分のやりたいことができ、たくさんの出会いもある貴重な時期です。その出会いを大切にし、いろんな経験を通して多くのことを学んでください。皆さんがそのような充実した大学生活を送ることを願います。

教育学部
生涯教育課程３年
石川裕貴

人とのかかわり

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活には慣れてきましたでしょうか？

高校生活もそうだったとは思いますが、大学生活もあっという間に時間が過ぎていきます。私も気付けばもう３年生になってしまいました。私はこれまでの大学生活でいろんなことを学びましたが、その中でも大切にしていることは「人とのかかわり」です。

私が総合大学である弘前大学に入学して良かったなと感じていることは、様々な学部学科の人たちとかかわりをもつことで、様々な視点での意見や考えを交流し合うことができるということです。私は教育学部で音楽を専攻していますが、さまざまな学部学科の友達と交流することで、「異文化音楽」「商業音楽」「音楽史と世界史の関係」「物理学での音楽」「音と感覚神経の関係」など、教育学の枠を超えたさまざまな視点で音楽について理解を深めることができました。人とのかかわりの大切さを学ぶきっかけとなりました。

授業、部活動・サークル活動、アルバイトなどで、これからたくさんの出会いをしていくかと思います。その出会いをどのようにしていくかは自分次第です。是非たくさんの人とかかわって、自分を高めていってほしいなと思います。

医学部医学科

弘前大学に今春入学した学生にインタビュー。これからの抱負について聞きました。
そして先輩たちからは学校生活で経験したこと、伝えたいことを聞きました。

医学部
医学科１年
今泉かれん

桜と共に

毎年かわらず美しく咲き、しかし同時に少しずつ前の年とは違う雰囲気を感じられる弘前の桜。違いを感じるのは、桜を見る人自身にその一年間の経験や成長、変化があるからのように思います。毎年見てきた桜ですが、私は今年とても新鮮な気持ちで見ることができました。

私は医師になるという目標を持って弘前大学に入学しました。一人一人の人がその人らしく生きることができるように、医療の面から支えられるようになりたいと思っています。そのために、大学生活の中では医学に加えて他の分野も積極的に勉強し、視野を広げるように努めたいです。また、たくさんの人と関わり多様な価値観を知ることで、自分の考えを深めていきたいです。より成長した自分となり、より良い医師となれるように、一日一日を大切に向上心を持って学んでいきたいと思います。そして、毎年少しずつ違って見える桜を楽しみながらも、新鮮な気持ちで見た今年の桜を忘れないようにしたいです。

最後に、私が弘前大学で学べるのは、たくさんの方々に支えて頂いているおかげです。感謝の気持ちを持って、日々努力していきたいと思います。

医学部
医学科１年
川﨑浩司

弘前大学に入学して

弘前大学に入学してからもう１ヶ月が過ぎようとしています。私は生まれてからずっとこの弘前市に在住しているのですが、弘前大学に入ってから大きく変わったことは、県外出身の友達が増えたことです。県外出身の人と交流することで自分の住んできた弘前の魅力を再発見することができたり、弘前の課題について考えさせられたりと、とても勉強になることが多いです。

私はこの大学生活、特にこの一年は、おそらく残りの人生の中で最も自分の自由に使える時間が多い時期だと思っています。だから私は、この機会に何か部活に入ろうと思いました。大学には高校と違って沢山の部活動やサークルがありますが色々悩んだ末、最後は部の雰囲気のよさから、写真部と空手部に入部しました。写真部では、撮影会などで行ったことのないところに行くことができ、貴重な経験になると思います。また、空手は中学以来やっていませんでしたが、高校の時の運動不足を解消し、より上手くなれるように日々練習に打ち込んでいます。先輩たちも優しく面白い先輩が多いのでとても楽しく練習させてもらっています。これから東医体などで大会に出る機会もあると思いますが、１つでも多く勝てるようにすることが今の目標です。そして留年しないように勉強の方も頑張っていきたいです。

医学部
医学科１年
喜納兼図

弘前大学に入学して

長かった受験生活が終わり大学生活の場に決めた弘前は私の実家沖縄県那覇市からはおよそ2,600㎞も離れた未知なる土地でした。雪が消え去った弘前の町は、受験の際に訪れた町とは全く違いとてものどかでこれからの学生生活への期待感が膨らみました。

学友会の歓迎会では記念品贈与の際の代表者に選んでいただき良い意味で目立つことができたので、その後の入学式や大勧誘会、ガイダンス、合宿セミナーなどで同輩からたくさん声をかけてもらえ仲良くなれたので人見知りの私にとっては大変助かり、遠方から来て良かったと心から思いました。

学友会の先生方のお話でかなり部活動を勧めてらっしゃったので、入学式での勧誘、大勧誘会、各部活の食事会等に積極的に参加してみると先輩方は優しくて面白い方が多く、ぎりぎりまで何部に入るか悩んだ末に、特に熱い勧誘をしてくださった医学部サッカー部に入部を決めました。医学部サッカー部での初めての練習は４月には珍しい雪が降ったので、寒さに弱く雪など全く見たことのない沖縄県民の私は大変な驚きと恐怖におののきました。長い学生生活で雪との付き合い方も学んでいかなければならないと強く思いました。

勉強に関しては、一学年上の先輩の留級が多かったということもあり自分は無事に進級出来るのだろうかと心配になりましたが先生方から教養科目だからといって侮ることなくしっかり取り組めば問題ないとのことだったので、初心を忘れずに真面目に取り組んでいきたいと思いました。また専門科目に関しては、受験時は物理選択だったのでこれから始まる医学部生としての勉学に多少の不安はありますがしっかりと勉強していきたいと思います。これから始まる学生生活を楽しむとともに立派な医師になれるよう勉学に励んでいきたいです。

医学部
医学科２年
石山美咲

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。進学や引っ越しの準備で忙しかった日々から早数ヶ月、新しい生活には慣れましたか？大学には青森県内外からたくさんの学生が集まっていますね。ぜひ、みなさんの地元について話をしてほしいです。きっと今まで気が付かなかった魅力や、様々な意見に触れることができると思います。そして気になる土地があったら休日を利用して訪れてみるのをお勧めします。

さて、大学の授業の時間割をみて、「空コマがあるなあ」と思いませんでしたか？学業だけでなく、食堂でおしゃべりをすることや、趣味や部活に時間を使っても良いと思います。時にはぼんやり過ごすのも必要かもしれません。そのなかで「自分は誰のため・何のためにどんなことをしたいのか」、考えてみてください。辛くなったとき、頑張る理由になると思います。

最後に、皆さんが困ったり悩んだりすることは先輩方も同じように経験しています。気軽に声をかけてみてください。きっと喜んで相談にのってくれるはずです。学ぶことはたくさんありますよ！

始まったばかりの大学生活、楽しんでくださいね。

医学部
医学科２年
小野　惇

新入生に向けて

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ようこそ、弘前大学へ。弘前といえば、春はとてもきれいな桜が咲き誇り、夏はねぷたで大いに盛り上がり、秋には美味しい林檎が実り、冬にはウィンタースポーツが楽しめる素晴らしい街です。青森県内出身者も県外出身者もぜひ弘前という街をぜひ楽しんでください。

さて私も昨年この弘前大学に入学し、今年の春に無事に２年生に進級する事ができました。昨年の今頃は私も皆さんと同じく新しい生活に楽しみながらも戸惑いも多々あったような気がします。また初めての一人暮らしも多いと思うので、まずは生活リズムをしっかりと整えることが重要であると思います。そのうえで、大学生になったということは自由も増えるということなので自分の趣味、サークル、クラブ活動など学生のうちにしか出来ないことも楽しんでいきましょう。また自分の時間を楽しむことも重要ですが、勉学もおろそかにしてはいけません。特に医学科の方は１年生がある意味モラトリアムでもあるので留年をしない程度によく遊びよく学んでください。

最後に新入生には入学した時の自分の目標を忘れることなく努力をしつつ、学生のうちにしか出来ないことも楽しんで大学生活を送ってほしいと思います。

医学部
医学科２年
床次玲未

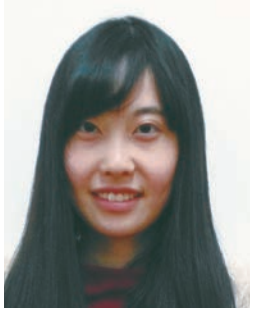
つながりを大切に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活や一人暮らしに慣れてきた頃だと思います。私が新入生に伝えたいことは学業を頑張ることはもちろんですが、縦と横のつながりを大切にして欲しいということです。縦と横のつながりの縦とは先輩方や後輩、横とは同期を示しています。このつながりを作るためには、同期の人と仲良くすることや部活動やサークル活動を積極的に行うことが大切だと考えています。また、学年が上がるごとに勉強も難しくなりまとまってたくさんの時間が取れるのは一年生のときだと思います。せっかく東北に来たのだからスキーやスノボといったウィンタースポーツを楽しんだり、アルバイトをしたり、いろいろなところに旅行に出かけたり、自分の趣味に時間を費やすのもいいと思います。私自身、友人同士で初めて海外旅行に行き、大変楽しい時間を過ごしました。最後に、大学生活とは高校生のときとは違って自由なことが多いですが、本来の目的を見失わないように自分の行動に責任と誇りを持って大学生活を謳歌してください。そして同じ夢を持つ仲間達と切磋琢磨して、充実した大学生活を送れるように努力してください。

新入生

医学部保健学科

弘前大学に今春入学した学生にインタビュー。これからの抱負について聞きました。
そして先輩たちからは学校生活で経験したこと、伝えたいことを聞きました。



医学部保健学科
看護学専攻１年
中里莉那

弘前大学の新たな一員となったことについて

弘前の美しい桜に出迎えられ、私は春から弘大生になりました。これからの大学生活がどのようなものになるのか、正直に言うと不安な気持ちが大きいです。しかし、それと同時に大学生になったことを実感して、胸が踊るような気持ちもあります。

私は、物心がついた頃から今までの間、看護師という職業に憧れを持っていました。なので、今このように自分の夢のために様々な知識を学ぶことができる環境に、とても感謝しています。現在の私は、具体的にどのような看護師になりたいという目標を持っています。そのために、この弘前大学で高度な知識や技術を学ぶことはもちろんですが、多くの学部や学科の学生と、サークルなどの様々な活動を通して、人間的な面でも大きく成長していきたいと考えています。また、講義以外でも自分から学ぶ姿勢を忘れずに、医療の現状について日本だけでなく世界に目を向けていくことで、将来自分がすべきことをより明確にしていくことができると考えています。

多くの人のサポートがあって今この場所にいるということを忘れず、新たな生活で出会う人との繋がりを大切に、メリハリのある中身の濃い充実した４年間にしたいと思います。

医学部保健学科
検査技術科学専攻１年
矢部優太

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して早くも一ヶ月半が経ちました。入学当初、地元北海道から移住し新しい土地での一人暮らしということで不安でいっぱいの日々を過ごしていましたが、新しい仲間との出会いや、大学側からのサポートなどのお陰で、日々楽しく生活することができています。さらに先日訪れた弘前さくらまつりで公園を埋め尽くすかのごとく満開に咲いた桜を見て、この弘前の地の素晴らしさを実感し、弘前での新生活により一層の期待を感じました。

さて、僕は将来、人の命を扱う医療に臨床検査技師として携わるために弘前大学で勉強していきます。大学でのこれからの授業は今までの中学校、高校とは違い受け身に授業を受けるのではなく、自主的に授業に参加し自分から学んでいくことが大切になってきます。教科書に載っていることだけでなく日本全体、世界全体といった規模の医療にも目を向け、広い視野を持って物事を考えていきたいと思います。さらに医学部ということで専門的な知識、技術を学ぶ機会が多く、後期からはそれを踏まえての実習が始まり苦労することが多くなってくると思いますが、同じ専攻の仲間と切磋琢磨してお互いに成長しあえたら良いなと思います。またその知識、技術だけでなく将来社会に出ても恥ずかしくならないような豊かな人間性を身につけていきたいです。そのためにも自分の考えだけに固執するのではなく、様々な人の考え方や価値観に触れて多角的に物事に向き合いたいです。

弘前大学でのこれからの４年間はあっという間に過ぎていくと思います。４年後に大学生活を振り返った時に自分なりに満足できるように、後悔することが少ないように毎日を大切にして生活していきたいです。

医学部保健学科
作業療法学専攻１年
佐藤朋美

弘前大学の一員になって

弘前大学に入学して、約一ヶ月半が経ちました。４月に引っ越してから一人暮らしを始め、生活や勉強に対して不安がありました。ですが、先生方や先輩方、友達、離れて暮らす家族の支えがあって、充実した毎日を過ごしています。今私は、第一志望である弘前大学に入学し、作業療法士になるための勉強をできることに喜びを感じています。覚えることが多いため、大変ではありますが、縦のつながりが強い私の専攻では先輩方も勉強の相談にのってくださるので、安心して勉学に励むことができます。また、20人という人数の少ないクラスなので横のつながりも大切に、同じ夢をもつ仲間として、いい刺激を与え合える関係を築いていきたいです。

私は大学４年間のなかで勉学のみならず様々なことをしたいと思っています。そこで中学生の頃から興味があった手話のサークルに入りました。まだ自己紹介ができるくらいですが、これからもっと手話を覚えて、聴覚に障害を持つ方とも会話できるようになりたいです。

私は、患者さんに「生きる喜び」を持ってもらえるような作業療法士になりたいと思っています。弘前大学で出会った人々と家族に対する感謝の気持ちを忘れず、有意義な学生生活を送ります。

医学部保健学科
看護学専攻２年
佐々木萌衣

自分らしく楽しい大学生活を！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんにお伝えしたい事は、自分の意思で行動しようということです。新入生のみなさんは、それぞれ事情もあったかと思いますが、最後には自分の意思で弘前大学に来ることを決断したはずです。大学生活でも様々な場面で決断をする機会が出てきます。大学は高校と比べ選択肢がとても多いです。もう既に何のサークルに入るのかやどんな授業を選択するかなど決断したと思います。何かを決める時、皆さんは何に重点を置いて決めていますか？１年前の私は人に流されて決断する事が多かったように思えます。自分で考えて行動するということは結構エネルギーを使います。いっそ全て誰かに決めてもらった方が楽だろうなと思います。しかし、それでは自分の成長には繋がらないと大学生活を通して実感しました。周りの状況に合わせる順応性も時に必要ですが、それは自分という存在があった上で出来ることだと考えます。時には選択を間違ってしまうこともありますが、自分で考えた上での選択であればその失敗は大きな糧にして前に進むことが出来ると思います。主体性が世の中的にも求められているので、社会に出る前にその力を培うことは必要なことだと思います。皆さんの大学生活が充実したものとなりますように！

医学部保健学科
放射線技術科学専攻３年
斎藤勇哉

大学生活における姿勢

大学生活を送る上で目標を持つことは大事なことだと思います。そこでまず新入生の皆さんには是非将来の目標を持ってもらいたいです。そしてその目標が達成されるように努力しましょう。

具体的なやり方としては、患者さんそれぞれにあった対応ができるように文化・宗教に関する授業をとる、イベントや部活・サークル活動を通して多くの人と接する。他にも生じた問題に対する対応力を身に付けたければ実験のレポートで考察に力を入れるといったことです。

時にうまくいかない時もあるでしょう。その時は自分の持っている力の範囲で頑張ればよいのです。それで失敗したらまたそこで学べばよいのです。ただし将来放射線技師であれば自分がいち専門家として働かなければなりませんし、そこで失敗は許されません。その失敗によって人が命を落としたり、障害を抱えたりする可能性があるからです。ですからそれだけ責任が重い仕事であることを自覚し、その中で自分がしっかりと活躍していけるように大学で学んでいくことが大切だと思います。

一生懸命やることはいい事ですがそれを続けることは困難です。ですので定期的に部活やサークルに参加したり、遊びにいったり、おいしいものを食べに行ったりすることも必要だと思います。弘前には美味しいお店がたくさんあります。お互い頑張っていきましょう。

医学部保健学科
検査技術科学専攻２年
濱谷野乃香

充実した大学生活を！

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。新しい環境での生活には慣れましたか？大学での生活は今までとは違うことに戸惑うことも多くあると思います。しかし、大学での生活は限りがあります。私自身、この一年過ごしてきて、始めは大学の自由さに戸惑って無駄にしてしまった時間がたくさんあったなと思い、後悔も少しあります。みなさんが大学に入学した目的は勉強するためだと思いますが、様々な人に出会い、経験し、一生懸命遊ぶことも学ぶことと同じくらい大切だと思います。勉強以外の経験は部活、サークル、バイトなどいろいろあります。自分がやりたいことを見つけられるように、興味を持ったことにどんどん挑戦してみてください。

私がもう一つ、大切だと思うのは人とのつながりです。特に先輩や先生とのつながりは、自分よりも多くの経験をされているので、体験談を聞かせていただけて自分の参考にもなります。先輩の言葉には私も何度も助けられました。周りの友達にもたくさん助けられていて、気軽に相談できる友達は私を大いに支えてくれています。

新入生のみなさんの参考に少しでもなれば幸いです。これからの大学生活楽しんでください！

新入生

理工学部

弘前大学に今春入学した学生にインタビュー。これからの抱負について聞きました。
そして先輩たちからは学校生活で経験したこと、伝えたいことを聞きました。

理工学部
数物科学科１年
駒木昌平

弘前大学の新たな一員となったことについて

弘前大学に入学し、早くも１ヶ月が経ちました。大学に入学したばかりの頃は高校との違いに戸惑っていたのを覚えています。受ける授業があらかじめ決まっていたのが自分で決めなくてはならず、先生が教室に来るのではなく自分が教室に行き…。他には希望や不安といったものも胸に抱いていましたが、今は大学生活に慣れ落ち着いています。

私が数物科学科を選んだのは、好きでかつ得意分野である数学を深く学びたかったのと、それを将来仕事に生かしたいと思っているからです。ただし、数学を仕事に生かすと言っても、それができる職業は世の中には数多く存在します。様々な情報を主体的に集め、自分がやりたいことを見つけていきたいと思います。

また、勉強と平行してこの４年間で様々なことに積極的に挑戦しようと思っています。実際に、私は総代の一員となり、他の総代と協力して大学生活をより良いものにしていこうとしています。

これから先、色々なことが待ち受けていると思いますが、常に弘前大学の一員である自覚を持ち、様々なことに積極的に挑戦し、有意義な大学生活にしたいです。

理工学部
機械科学科１年
山中　蛍

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して１ヶ月がたちました。地元の大学に入学できたことをうれしく思っています。最初は不安があった学生生活ですが、ガイダンスやイベントのおかげで薄れてきました。また、友人もでき、楽しく過ごしています。高校の時とは違い、大学は自分で講義を決めたりします。そのため、自由な時間がありまだ活用しきれていませんが、これから自分のために使っていきたいです。そして、さらに知識を身につけて将来、自分がやりたいことのためになればいいと考えています。

自分が所属している機械科学科は女子学生が少ないですが、その中でも自分のやりたいことを見つけて学んでいきたいです。また、自分の不得意なことを克服できるように時間を有効に使いたいです。

また、勉学以外に私はアルペンスキーを頑張りたいです。競技スキー部に入部し、すてきな先輩方にであうことができ、自分自身、さらにアルペンスキーの技術を磨いていきたいです。

大学４年間でたくさんの経験をし、知識を身につけて有意義な大学生活を送りたいと思います。また、大学に通わせてくれた両親に感謝し、社会人になったとき自分にとって成長できた大学生だったと、後悔しない学生生活を送りたいです。

理工学部
自然エネルギー学科１年
TEH JUN XUAN
（テイ ジュン シュエン）

これからは大学生だ

こんにちは。マレーシアのペナンからきたテイです。あっという間に、弘前大学に入学して早くも１ヶ月が経ちました。最初は、やはりみんなと同じく、「勉強についていけるのか？」「友達ができるのか？」のような不安を抱いていました。ちなみに、私は一番悩んでいるのは、私が話した日本語は日本人には分かるかどうかということです。しかし、この１ヶ月で、優しい先生や先輩たちと友人が手伝ってくれたおかげで、そのような心配はいらないし、大学の生活も段々慣れてきました。高校のときに、何を勉強するとか、いつ何をやるとかなど、すべて先生の指示に従えればよかったです。しかし、大学に進学したら、どのような授業に興味を持つのか、時間割はどのように分けたほうがいいのか、全部のことを自分で考えなければならないです。これは、大学生になる証明であり、自立への第一歩だと言っても過ぎないでしょう。これからは、もっと頑張って、自立できて、決断力がある人になることを目指します。言うまでもなく、大学で一番大切なのは知識を身に着けることです。しかし、それは全部だとは思いません。せっかく遠いところから来た私は、勉強を重要視しながら、日本の文化、習慣、新しい考え方なども勉強したいです。何よりも、一番大事なのは４年の大学生活を充実で送ることで はないでしょうか。

理工学部
物質創成化学科４年
谷津友章

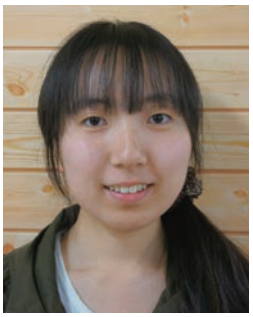
新入生に伝えたい事

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新たな環境での生活には慣れたでしょうか。大学に入学してからしばらく経ち、そろそろ入りたいサークルや部活が決まり、新しい友達も増え始めてきたころでしょう。

私からみなさんに伝えたいことが一つだけあります。大学生活の４年間でかけがえのない友達を数人だけでもいいので見つけてください。大学に入学したからには、勉学に励まなければいけないのは当然で、課題に追われる日々が続けば、嫌でも勉強しなければいけません。そこで、自分一人では解決できない問題を一緒に考えてくれる友人。週末には、わいわい騒ぎ合えるサークル・部活での友人。自分の周りの環境が充実してくれば、他人の意見から得るもの、影響を受けるものの量や質はだいぶ変わってくると思います。

そしてできれば、そこから新しいことにチャレンジしてみてください。留学、旅行、アルバイトなど、大学にはやりたい・挑戦してみたいと思うことを実行できるチャンスと時間がたくさんあります。そこから得た経験が無駄になることは絶対にないはずです。大学側からも様々な活動に関する情報が開示されているはずです。興味があるならばチェックしてみるのもいいでしょう。

勉強だけをしていても、４年間はあっという間に過ぎていきます。そこからさらに何を身に着けて卒業していくかは、皆さんの積極的な行動にかかっています。ぜひ、悔いの残らない４年間を過ごしてください。



理工学部
地球環境学科２年
安住亜友美

大学生活を後悔しないために

新入生の皆さん、突然ですが、大学での目標、やりたいことは決まっていますか？６月になり、そろそろ大学生活にも慣れてきたことでしょう。ただ、慣れたからといって、そのままのんびりと過ごすだけではもったいない！あっという間に１年が終わり、あれ？という間に大学生活は終わってしまうのだそうですよ。

私も、昨年の１年間はとても短く感じましたが、本当に充実した日々であったと胸を張って言うことができます。なぜなら、「やりたいこと」を考え、見つけ、できるだけ実践しようと行動を起こしていたからです。私が大学生活で「やりたいこと」は、例えば、弘前のアップルパイ巡りをしたい、友人と旅行に行きたい、などの比較的すぐに達成できそうなことから、幼い頃からずっと興味のあった地球環境についてたくさん学んでいきたいということまで、たくさんあります。実際、今の私は毎日やりたいことだらけで、忙しいですがとても楽しいです。

大学生には時間があります。そして、その時間を何に費やすかは、自分で選ぶことができます。人生の夏休みとも言われる大学生活、やってみたいことは全部、何でもチャレンジしてみてほしいです。卒業するとき「自分はやりきったぞ」と胸を張れるよう、毎日を大切に過ごしていきましょう。

理工学研究科
理工学専攻１年
須藤若菜

目的意識を持って

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活に慣れてきた頃かなと思います。

私が大学４年間を振り返って、新入生の自分に言葉をかけるとしたら、授業・サークル・留学など何事にも目的意識を持って、自分の成長のために貪欲であって欲しいということです。弘前大学は、専門学科の知識を深めるための設備はもちろん、総合大学であるため、専門学科以外の講義も受ける事ができ、また、留学や国際交流等にも力を入れています。目的を持って行動すれば、色々な事に挑戦できる環境が整っているのに、なんとなく過ごして、成長の機会を逃すのはもったいないです。 視野を広げることは、新しい道を拓く可能性を高めます。実際、私の先輩に受けた他学科の講義が楽しくて、そのジャンルの仕事に就いた人もいます。好奇心旺盛に様々な事を楽しんで欲しいと思います。

目標に向かって目的意識を持って行動できる人は、自分自身で進む道を選ぶ事ができる人です。そのような経験は、就職活動等において自分がどういう人間かを考える際、必ず助けになります。大学での数年間は、20代最後の自由な時間です。自分は何が好きで、何が嫌いか、自分自身を見つめ直し、行動する良い機会だと思います。ぜひ大学生活を楽しんで下さい。

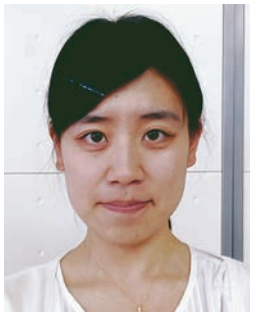
農学生命科学部

弘前大学に今春入学した学生にインタビュー。これからの抱負について聞きました。
そして先輩たちからは学校生活で経験したこと、伝えたいことを聞きました。

農学生命科学部
生物学科１年
小黒那智

入学

私はこの春、農学生命科学部生物学科に入学しました。
私がなぜこの大学を志望したかというと、高校で一番の得意教科で、尚且つ興味があったのが生物学でした。教科書や図表で見た、扁形動物の一種である『プラナリア』は私の好奇心を非常に掻き立てるものでした。
弘前大学のパンフレットを見ると、この大学にはプラナリアの研究をしている先生がいることがわかりました。これが分かったとき、私は弘前大学農学生命科学部生物学科を第一志望にすることを決めました。
いざ入学し、時間割を組んで講義を受けてみると、生物学だけでなく高校の時には理系であるがために受けることができなかった日本史なども学ぶことができ、元々学びたいと思っていた生物学以外の分野の見聞を広めることができる機会が多いため、入学前の予想よりも遥かに充実した学校生活を、新しくできた仲間と送っています。
仲間と一緒に昼を学食で楽しい話をしながら食べ、その後共に専門科目の講義を受けるのが学校生活の楽しみの一つとなっています。
部活にも入り、講義で会う仲間以外の仲間とも出会うことができました。
私は弘前大学の新たな一員となったことに、とても満足しています。



農学生命科学部
分子生命科学科１年
藤弘桜子

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して、一ヶ月が過ぎました。弘前にも慣れたような、慣れないような。一人暮らしをしてみて、家族のありがたみをしみじみと感じています。ゴールデンウィークに帰省して、やはり地元が一番だと思いました。弘前も同率一位になるような、楽しく充実した大学生活を送りたいです。
入学したての時に、もやし入りのうどんを作って、両親に「もやしの死体が浮いている」と笑われるほど、料理のセンスがない私は、これからの食生活が多少不安です。今では見栄えのいい料理も作れるようになったと、自分では思っていますが、いまだ馬鹿にされています。
私はなんとなく、割と近い国公立大学であるという理由で、弘前大学を選びました。特にやりたいことがあった訳ではなく、入学してからしばらくは何がしたいのか迷いました。今はやりたいことも見つかったので、その目標に向かって頑張りたいと思います。また、大学ではサークル、バイト、ボランティアなど高校生の時にしてこなかったことに積極的に挑戦していきたいです。自由が多い分、自己の責任が大きくなると思うので、緊張感を持ちつつ、弘前での大学生活を満喫しようと思います。

農学生命科学部
地域環境工学科１年
鈴木淳太

弘前大学の一員になって

この春から大学生になり、ひとり暮らしを始めてから約１ヶ月が経ちました。初めてのひとり暮らしや今までとは違う環境での大学生活に不安がいっぱいでしたが、この約１ヶ月でひとり暮らしや大学の講義には少しずつ慣れてきました。大学は自分で講義を決めるなど高校とは違い自由度が高く自由な時間も多いのでライフスタイルを自分で決められますが、その分主体性が求められます。そのため自分の考え方や行動次第で良い方にも悪い方にも変えることができるので自由だけではなく今までとは違った責任感を感じるようになりました。サークル活動にも参加しいろいろな人と仲良くしてもらい多くの友達を作り、楽しい思い出を作りたいです。また大学院進学も考えているので教養科目や専門科目の勉強はもちろんのことですが、興味を持ったことや学科に関係していることも勉強していきたいです。この４年間の大学生活では社会人になったら経験できないことや挑戦できないことをしたいです。また社会人になるための準備としていろいろな場所に行きいろいろな人と出会いいろいろなことを経験して自分の見聞を広げたいです。そして終わった後にこの４年間が有意義なものだと思えるように明確なビジョンを持って過ごしたいです。

農学生命科学部
園芸農学科３年
髙木大地

悔いのない大学生活を

新入生の皆さん御入学おめでとうございます。大学生活が少したち、学科やサークル、部活などで新たな友達が出来たと思います。講義時間が長いこと、自分で受講する講義を組むなど、高校時代とは違い、慣れないことが多いかもしれません。また、大学は４年間（医学科生なら６年間）もあるのでだらけてしまう人もいるのかもしれません。しかし、大学は長いようで短いです。私は、今年３年生ですでに半分を過ぎました。あっという間に過ぎてしまい、正直やりたかったことすべて出来なかったと思います。新入生には、そうならないように目標設定をし、時間をうまく使って下さい。

私の所属する農学生命科学部には、５つの学科があります。もちろん、それぞれ専攻、研究内容が違います。新入生のみなさんは１年生のうちに段々と自分が所属する科がどんなことをするのか、明確に見えてくると思います。その中で自分のやりたいことが変わったときは科を移動する転科という選択肢も考えてみて下さい。

最後になりますが、新入生の皆さんには、ぜひ時間を有効に活用し、大学生活を満喫して下さい。

農学生命科学部
地域環境工学科３年
白戸結花

新入生の皆さんへ

２年前の春、新しい環境への不安を抱えながら入学した私も、気が付けば３年生になってしまいました。新入生の皆さんも新しい環境に慣れ、落ち着いてきたところでしょうか。

大学生活はあっという間に時間が過ぎてしまいます。皆さんも高校３年間を思い出してみて下さい。大学生活はその３年間にプラス１年されただけなのです。ただ４年間、ボーっとして過ごしてしまうのはとてももったいないですよね。

大学では、授業がある日でも時間割によっては自由時間が確保でき、加えて約２か月間の長期休みが年に２回あるので、自由に使える時間が本当に多いです。なので、「やりたいと思ったことは全部やる！」くらいの気持ちで過ごすのがちょうどいいのだと思います。趣味やサークル、旅行など、学生のうちにしておきたいことはどんどんしていきましょう。

そして、学業に支障のない程度にアルバイトをすることもオススメします。大学生活ではあまり関わりのない人とも関わることができるので、交友の幅が広がります。また、自分で働いてお金を稼ぐことの苦労と達成感を身をもって感じることができ、社会勉強にもなります。

たくさんの経験は皆さんの財産となり、何にも勝るものとなるでしょう。皆さんのこれからの大学生活がより良いものになることを願っています。

農学生命科学研究科１年
田中千景

時間を大切に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前での新生活が始まり、数か月。新しい環境での生活には慣れ始めたころでしょうか。友人ができ、部活やサークルなどでは頼もしい先輩と接することもあったでしょう。私は入学してから今でも、学生寮に住んでいます。４年前の入学式、寮の先輩から「大学４年間はあっという間だよ。」と言われていたにも関わらず、気がつけば卒業式が終わっていました。もっといろいろなことに挑戦していれば、より実りある日々を送れただろうと思います。

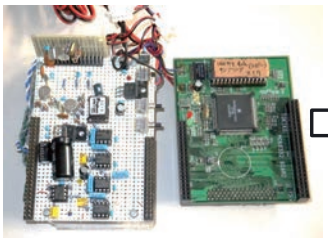
時間は待ってくれません。学業、部活やサークル、アルバイト、友人や恋人との時間。何をしていても４年間はあっという間に過ぎてしまいます。今までの生活と比べ、大学では自由な時間が多くなります。その時間を無駄にせず、有意義なものにしてください。新しく何かに挑戦することは勇気が必要ですが、後に大きな力となって返ってくるはずです。４年後、その充実した日々は自信に、友人は心の支えとなり、皆さんの卒業後の日々をより豊かにしてくれることでしょう。

弘前公園の桜は見に行きましたか。夏には弘前ねぷた祭り、青森ねぶた祭り、五所川原立佞武多祭りがあります。ぜひ友人と見に行って、できれば参加してみてください。絶対いい思い出になりますよ！

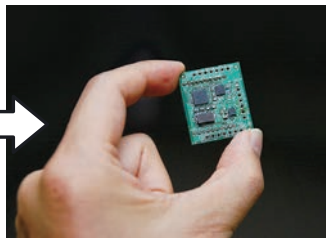
理工学部機械科学科
医用生体計測分野

教授　佐川 貢一

2001年９月に弘前大学理工学部知能機械システム工学科に助教授として赴任し、どこでも人の動きを簡単に計測する方法について主に研究を行っています。この度、研究室紹介の機会を頂きましたので、現在の学科や研究室のこと、これまでの研究内容について紹介させていただきます。



世界初の階段昇降を判別するカロリーカウンター（左：試作機、右：商品化）



３次元動作計測装置（左：投球動作計測用１号機、右：最新バージョン）

図１：これまでに開発した動作計測システムの例

研究室紹介

機械科学科は、これまでの知能機械工学科を改組し、平成28年度から発足した学科です。定員は80名で、２年次前期までは通常の機械工学に関するカリキュラムを実施しますが、２年次後半からは「知能システムコース」と「医用システムコース」に分かれ、医用システムコースは従来の機械工学の他、医工学に関する講義や実験を履修することとなります。このようなカリキュラムを実施することで、近年の国の医療機器分野に関する政策に対応して、医療機器の開発に携わることのできる人材を育成していきます。

私どもの研究室は、医療分野での計測に関する問題を工学的に解決する方法を研究することに加え、地域住民の健康増進への協力や、スポーツに関わる動作計測など、老若男女を問わず、様々な分野での動作計測や特性解析を工学的にサポートすることを目標としています。これまで、博士２名、修士26名、学士21名を輩出し、多くの卒業生が、機械、電気、家電、ソフトウェア、医療関連の企業や機関に就職しています。

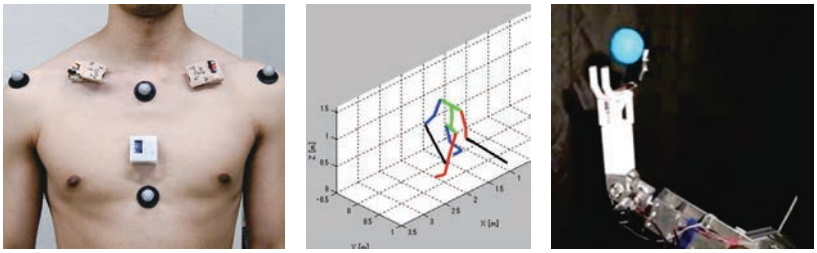
平成28年度からは、城田農准教授と長井力助教が加わり、博士前期課程４名（２年1名、１年３名）、学部４年８名と共に、「医用生体計測分野」を構成することとなりました。今後、充実したマンパワーを活用し、これまで以上に医療や地域の健康増進に貢献したいと考えています。

研究紹介

研究室のメインテーマの一つは、「簡単に人の３次元的な動きを計測する方法」に関する研究です。現在、人の３次元的な動きを正確に計測するためのゴールドスタンダードは、赤外線を反射する直径数センチの球状の反射マーカを被験者の関節などに貼り付け、そのマーカを実験室の天井付近に設置した赤外線カメラ（通常６台以上）で撮影する方法です。この方法は、計測精度が非常に高いため、医療分野や人間工学の分野などで、人の動きを評価するために利用されていますが、その他の利用法として、映画やテレビゲームに登場する人物（アバターなど）の動きをCGで作成するときにも使われており、非常に応用範囲の広い優れた測定装置です。しかし、装置の値段が高く、カメラ1台の値段が自動車1台分程度であったり、以前の測定装置は屋外では使えないなど、不便な点が多くありました。そこで私どもの研究室では、どこでもすぐに使えて、値段の安い動作計測装置の開発に取り組んでいます。

人の動きをどこでも精度よく計測するというテーマは、循環器系の医師が心臓病患者の治療効果を把握するため、24時間測定した心電図と日常生活の運動強度との関係を調べたいという要望から始まりました。日常生活の中で運動強度に最も影響のある動作の一つは、平地歩行と比較して３倍以上の運動負荷となる階段の上りです。しかし、患者が平地を歩いているのか、階段を上っているのを判断する方法は、当時はありませんでした。そのため、日常生活の中で心臓の動きと運動強度との関係を定量的に評価することができませんでした。そこで、足踏み動作は加速度センサで判断し、階段上りに伴う上下動は気圧センサで判別することを検討しました。このアイデアを実現する装置は、階段を３段くらい上ったときの気圧の変化を測定することを可能とし、階段上りを判別する世界初のカロリーカウンタとして発売されました。研究開発段階で試作した装

岩木プロジェクトでの歩行計測　投球動作計測



上半身の動作計測　ノルディックウォーク　投球動作解析ロボット

図２：最近の動作計測に関する研究例

置は、「世界初の階段昇降を判別するカロリーカウンター」として、理工学部1号館1階のサイエンスミュージアムに展示してあります（図1上）。

気圧センサを使って歩行形態を判別する方法は、歩く速度までは測定できませんでした。そこで、階段昇降に加え、前後左右方向の人の歩いた経路まで測定できれば、運動強度の他、運動内容の詳しい情報まで測定できると考え、加速度センサ、ジャイロ（角速度センサ）、地磁気センサを併用した爪先装着型慣性センサシステムを開発しました（図1下）。これにより、屋内外を問わず、階段昇降も含めた歩行経路（足の爪先の軌道）を3次元的に測定することが可能になりました。このセンサはその後、小型軽量化のための改良を行うと共に、動作解析ソフトウェアの利便性と精度を向上させたことで、平成26年度からは医学部社会医学講座の中路重之教授が実施している革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）「脳科学研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」での「岩木健康増進プロジェクト健診」にて、10メートル最大速度歩行時の歩き方の特性計測に使用しています（図2左上）。具体的には、歩行時間の他、一歩毎の歩幅、爪先角度、つま先高さを測定し、認知症と関連する指標の導出に利用することを目指しています。岩木プロジェクトでは、1日100人程度の参加者の歩行特性の測定を10日間連続して行います。1日100人の全力歩行特性を3次元的に測定する手法は、私どもの開発したセンサシステム以外には世の中にほとんど存在しないと考えています。現在、医療診断に安心して使えるデータを提供するため、センサシステムの改良を行っています。また、一歩毎に歩行動作を測定可能な慣性センサを利用することで、健常高齢者の転倒を予測したり、転倒を予防する方法も検討しています。ワーキングメモリの容量が低下した人は、考え事をしながら歩くと歩き方が変化しやすくなり、転倒の危険性が高まります。これまで、医学部保健学科の木立るり子教授の協力の下、地域の健常高齢者を対象とした二重課題歩行計測実験を数年前から実施し、転倒経験を判別する方法を提案してきました。現在、参加者の追跡調査を行うことで、転倒予測を実現する方法の開発に取り組んでいます。

歩行動作計測のために開発した慣性センサシステムは、装着する場所の動きを3次元的に測定できることから、スポーツ動作の測定にも利用可能です。これまで、医学部整形外科学講座の先生方と協力し、センサを上半身に装着することで、投球動作を解析するシステムの開発を行ったり（図2右上）、鎖骨の動きも考慮した腕全体の動作を計測する方法を開発しました（図2左下）。また、教育学部戸塚学先生の協力の下、全身に10個以上のセンサを装着することで、ノルディックウォーキングの上達度を評価する動作計測に応用したり（図2下中）、宙返りも含めた全身の3次元動作計測も実現できました。

その他、投球動作解析法の妥当性を検証するため、人間の複雑な肩の動きを実現するロボットを開発し、投球動作を模擬したときの肩関節に作用する力を実測して計算した値と比較し、計算法の妥当性を確認することも行っています（図2右下）。

終わりに

私どもの研究室では、医療現場から提案されるニーズに応えると共に、今後は新たなスタッフも交え、動作計測のみならず、治療薬が体内を循環する様子の可視化や、これまで見ることのできなかった、わからなかった人間の特性を目に見える形で提示する方法を検討していきます。また、医療行為をサポートするロボットの開発などにも取り組んでいきます。

STUDYING ABROAD REPORT

韓国

Ⅳ

海外だより

医学部保健学科 看護学専攻４年
工藤 里紗

私は、韓国の慶北大学というところに交換留学生として滞在しています。韓国に来て９か月が経ち、留学もそろそろ終わりに近づいています。

慶北大学は韓国の大邱という地域にあります。大邱は夏は非常に暑く、冬は雪は降らず青森に比べたら温かいですが結構寒いです。今もうすでに暑くなってきているところです。

私は韓国が大好きで留学に来ました。独学で韓国語を勉強していましたが参考書で学ぶ韓国語に限度を感じ、実際に韓国に行き、生きた韓国語を学びたいと思い留学を決めました。留学先を慶北大学にしたのは大学一年生の時にサマープログラムで慶北大学に来て２週間ほど大邱にいたのですが、その時に大邱という都市が非常に気に入り、両親も一度行ったことのある地域なら安心だとのことで慶北大学にしました。ソウルよりも都会すぎず、かと言って田舎でもなく、わたしは自分の性格上そういった土地を好むので大邱での生活をとても快適に過ごせています。

留学に来て前期の間は語学堂に通って韓国語を勉強していました。語学堂には大学入学に向けて韓国語を学んでいる外国人が多くおり、そこで他国の方々と一緒に勉強しました。韓国語のレベルが同じくらいの人達と勉強するので

負担を感じることなく勉強することができました。語学堂の先生達もみんな優しく、面白くて非常に楽しかったです。そして語学堂とは別に大学の授業も取りました。留学生向けの韓国語の授業をとりましたが、語学堂で学ぶものとは違いより実践的な韓国語を学ぶことができます。後期では語学堂に通わず、大学の授業だけをとることにしました。引き続き韓国語に関する授業をとり、その他に私の専攻である看護の教養科目をとりました。専攻科目は韓国人学生と

一緒に受ける授業であるため教員はもちろんネイティブのスピードで授業を進めていくので、留学生向けの授業とは違いついていくのに少し大変ですが勉強し甲斐があります。

留学にきて最初に困ったことが、慶北大学は留学生が非常に多いため、留学生のための集まりやイベントが多く設けられています。しかし、そういった集まりのほとんどは英語でのコミュニケーションが基本となるため、韓国語を学びにきた私としてはどうやって韓国語を使う場を探せばいいのだろうかと悩んだ時がありました。そこで、サークルに所属したり、韓国人の方々と出かけたり食事する機会があった時には積極的に参加しました。やはり、ネイティブの方々と会話をすると、私がうまく表現できないことがあっても意図を汲み取って理解してくれたり、表現を直してくれたり、若者言葉を教えてくれたりと話していてとても楽しいですし言葉や韓国文化をたくさん知ることができます。私はもともと消極的な方でしたが、留学に来てみて自分から進んで何かしなければいけない状況に追い込まれ、積極性が身についたのではないかと思います。

慶北大学では、留学生向けにイ

ンターンシップを提供しているのですが、わたしは漆谷慶北大学病院でインターンをさせてもらい、そこで良い経験を積ませてもらいました。韓国では海外からの患者誘致に力をそそいでいるため、国際協力部門があり、そこでインターンをしました。主な仕事は事務的なもので日本語ホームページの作成や書類の翻訳、日本の病院との仲介業務等を行いました。職員の方々に日本語を教えることもありました。その他、わたしが看護学生だということで看護部の見学をする機会を与えて下さいました。韓国の看護師業務や病院形態を教えて頂いたり、看護技術の体験をする機会も設けて頂いたり、実習に来ていた看護学生と話すこともでき、貴重な体験をさせてもらいました。学校とはまた違ったコミュニティで活動することはなかなかできないことだと思うので良い経験になったと思います。

留学中の思い出は、私は旅行が好きで、留学の間、韓国国内をたくさん旅行したことです。韓国に滞在しているからこそ行けるようなところに行くことができ、韓国人の友達と行くことで美味しいものを食べたり、素敵なものを見ることができたりととても充実した旅をすることができました。

留学して９か月が経ちますが時間が本当にあっという間に過ぎてしまいました。私は留学に来て本当に良かったと思っています。日本にいるだけでは見えなかった日本の良いところを見つけ、日本にいてはわからなかっただろう韓国、海外の素晴らしい部分を発見し、自分の視野が広がったと感じています。留学を承諾してくれた両親、留学するにあたり協力して下さった保健学科教員の方々、国際教育担当の先生方には本当に感謝しています。周囲の方々の協力があっての留学であることを忘れず、残り少ない留学生活を精一杯過ごしていきたいと思います。

V 新任教員紹介 あいさつ

南　修平　人文社会科学部　准教授

４月１日より人文社会科学部に着任しました。多文化共生コースに所属し、アメリカ史を専門としています。特にニューヨークの歴史について、この地で働き、日常を生きる人々の姿を通じて明らかにしていくことに関心を持っています。華やかなイメージのあるニューヨークは一方で人種関係をはじめ厳しい現実も抱えています。そうした多文化社会の理想と現実について今後も考察していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

亀谷　学　人文社会科学部　講師

中東イスラーム世界、広くはユーラシア世界の歴史を研究しています。専門は西暦７～９世紀の政治史、特に、最近になって現代的な問題にもなってしまったカリフの歴史です。このカリフという存在が、イスラームが始まった７世紀から現代までどう展開していったのかを考えることが直近の課題となっています。難しいニュースの多い地域ではありますが、そうではない面も紹介したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

片岡太郎　人文社会科学部　講師

平成28年４月１日付けで着任しました片岡太郎と申します。専門は文化財科学であり、考古資料をはじめとする文化財の保存技術の開発と保存実践、非破壊分析を専門としております。人文社会科学部の新しい顔のひとつとして、地域文化財の保存の原動力となり、研究・文化振興・人材育成に邁進していきたいと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

小杉雅俊　人文社会科学部　准教授

平成28年４月より、人文社会科学部に着任いたしました。私は北海道出身です。北海道新幹線が開業し、青森県・函館ディスティネーションキャンペーンが盛り上がる中、ここ弘前大学に勤務できることを嬉しく思っています。

専門領域は管理会計です。品質原価計算の理論的なフレームワーク、特にイギリス独自のアプローチであるプロセスコストモデルに着目した研究を行っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

熊田　憲　人文社会科学部　准教授

平成28年４月に人文社会科学部に着任しました。専門は「イノベーション論」です。国のイノベーション・システムや地域発のイノベーションについて、そのメカニズムやマネジメントの研究を行っています。イノベーションの創出は、企業のみならず国や地域においても重要課題のひとつとして位置付けられています。弘前大学では、地域にダイナミズムを生み出す「地域イノベーション論」に取り組んでいきます。宜しくお願いします。

桑波田浩之　人文社会科学部　講師

４月より着任しました桑波田浩之と申します。専門は国際経済学で、特に国際貿易に関する計量実証分析を行っています。経済法律コースで、国際経済・産業立地論などの専門科目を担当します。経済学と聞くと難しそうと思うかもしれませんが、経済のしくみを客観的に考察する、とても興味深く、ためになる学問です。わかりやすい授業を行うことに努めますので、真剣に研究に取り組んでもらえたらと思います。よろしくお願いします。

近藤　史　　人文社会科学部　准教授

2016年４月より、人文社会科学部地域行動コースに着任しました。もともとは農学を学んでいましたが、生態人類学や地域研究と出会い、いまは人間と環境、それをとりまく社会や経済、政治的要素の関係を包括的に分析しながら、地域社会の課題を解決する実践的な方策について研究しています。青森県でもフィールドワークをおこない、地域の持続的な発展と、弘前大学のさらなる発展に貢献したいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

佐藤　剛　　教育学部　講師

この春、教育学部英語教育講座に着任いたしました佐藤剛と申します。昨年までの11年間、公立中学校で教員をしておりました。

私も弘前大学教育学部の卒業生であり、両親、妻も弘前大学教育学部の卒業生です。ここは私のとって非常にゆかりのある大学といえます。英語科の先生方は私が学生当時、ご指導いただいた先生であり、当時、僕に粘り強く、熱心に指導してくださった先生方と仕事ができることを心強く感じています。

小寺弘幸　　教育学部　准教授

郊外には、田植えを終えた田圃を見かけます。その中に苗が一列に植えられておらず、思い思いに植えらたように正に不揃いの田圃が一枚。それが私たちの生き方と重なって見えます。「右へ倣え」と言えば、皆そろって一斉に追随する。普段の生活のすべてにおいて常にそうであっては、向上心も充分にはもてないのではないでしょうか。この田圃の苗のように、たとえ不揃いでも個性豊かに成長を遂げられる手助けになれたらと思います。

瀧本壽史　　教育学部　准教授

４月１日付で教育学部附属教育実践総合センターに着任しました。36年間の高校教員を経ての新天地です。日本近世史、中でも本県域を中心とした北奥地域史を主に研究してきました。本学ではその中で明らかにしてきたことを教育の観点から捉え直し、現場での実践力を高めていくための教科領域指導や地域課題研究に取り組んでいきたいと思っています。本県教育界を牽引する教員の育成に向け全力で頑張りますので宜しくお願いします。

三上雅生　　教育学部　准教授

４月に赴任しました三上です。もともとは中学校教員ですが、行政経験が長く、青森県教員採用試験の担当を務めたことがあります。また、昨年度は青森市の中学校で再任用となり、初任者を専門に指導する拠点校指導教員をしていました。受け持った初任者の中の２名は英語と社会の先生であり、本大学教育学部新卒者でした。このように、何かしらの縁があるようなので、この縁を大切にし教師を目指す学生のためにがんばります。

金本俊幾　　理工学研究科　教授

平成28年４月１日付けで理工学研究科に着任いたしました金本俊幾と申します。

専門は半導体集積回路のデバイスモデリングと組込みシステムへの応用です。

センサーと通信機能を有する物がインターネットを介して連携する、いわゆるIoT（Internet of Things）に向け、冬の白神山地のような厳しい環境下でも確実に動作するスマート組込みシステムなど、地域に即した研究を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

V 新任教員紹介 あいさつ

佐々木一哉　理工学研究科　教授

材料工学や電気化学を基礎とする実験研究により、資源枯渇、環境破壊、経済格差などの人類が抱える課題の解決に貢献するよう、新しいエネルギーシステムやそのための材料を研究しています。自然エネルギー学科は本年度新設されました。学生の皆さんが自己を大きく成長させられる学科となるよう努めてゆきます。学生や研究者の皆さんには、気兼ねなくお越しくいただき、色々な質問やアイデアをいただきますよう、お願いいたします。

増野敦信　理工学研究科　准教授

2016年４月１日付けで、理工学研究科物質創成化学コースに着任いたしました。

専門は固体化学で、無容器浮遊させた高温融液から新しいセラミックスやガラスを合成し、その機能開発や構造解析を行ってきました。

浮遊融液は物質探索のフロンティアです。

弘前大学ではこの無容器浮遊法をさらに発展させて、新しい物質化学を展開したいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

梅田浩司　理工学研究科　教授

平成28年４月１日付けで着任しました、梅田浩司と申します。専門は地質学で、これまで自然災害の長期的な予測・リスク評価に関する研究に携わってまいりました。近年では人間活動に伴うエネルギー・資源の枯渇、環境汚染、自然災害等がより深刻な問題になっています。学科名である「地球」「環境」「防災」をキーワードに地域にも貢献できる研究・教育に取り組んでいく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

銭谷　勉　理工学研究科　教授

４月に理工学研究科に着任致しました。３月まで大阪の国立循環器病研究センター研究所で、医学応用を目的とした画像処理ソフトウェアや画像計測システムの研究開発に携わってきました。これまでは応用に重点がありましたが、今後は基礎研究にも力を入れて、新しい技術の開発を学生と一緒に行い、研究の楽しさを伝えられたらと思っています。秋田県出身なもので、弘前の方言を聞くとほっとします。どうぞよろしくお願い致します。

石山新太郎　理工学研究科　教授

平成28年４月から自然エネルギー学科に着任いたしました。前職は日本原子力研究開発機構において、①核融合、高温ガス、高速増殖炉等の第３世代ならびに次世代炉（炉心構造設計、耐熱熱構造材料および各種耐熱構造機器開発）ならびにその発電実証（ヘリウムガス発電、超臨界CO_2ガスタービン発電システム）、②量子ビーム（ニュートリノ、中性子、レーザー、X線、放射光等の総称）融合化科学による新学術領域の開拓、③先進がん治療診断ならびに装置（中性子を利用したBNCT治療装置ならび先進ロボットによるiPS臓器蘇生技術）によるにの実用化開発、④福島原発事故対応技術の開発（汚染土減容化、先進知能過酷環境下作業用ロボット）等の従来の研究領域を超えた最新技術の開発に努めてまいりました。

弘前大では、これら研究開発で培ってきた最新技術を自然エネルギーに応用することにより次世代型自然エネルギーシステムの開発に取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

谷田貝亜紀代　理工学研究科　准教授

平成28年４月1日付で理工学研究科に着任しました、気候・気象学が専門です。高校生の時、比較的少人数に気象、水の流れや環境問題を教えたいと思っていました。その夢が、こんな素敵なキリストの香りのする街で叶い、心から嬉しく思います。また10年前に私が始め、世界に知られたアジアの降水量の仕事（APHRODITE）が今年採択されました。弘前で雪や地域の問題と絡めながら学生さん達と一緒に研究し、世界に発信したいと思っています。

矢野哲也　理工学研究科　准教授

平成28年４月に理工学研究科に着任しました。札幌出身で、直近の11年間は、鳥海山の麓にある秋田県の大学に勤務しておりました。専門は、生体医工学、人工臓器工学と呼ばれる分野で、主に非生理的血流条件下での血球の損傷過程やその評価方法について研究してきました。これからは、この地域に貢献できるよう教育、研究に全力で取り組んでまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

森脇健司　理工学研究科　助教

平成28年度４月１日付けで理工学部機械科学科の助教に着任いたしました、森脇健司と申します。大阪府出身です。着任前には、国立循環器病研究センターという病院付属の研究所にて、血管・心臓弁等に関する医療機器・評価機器の開発に従事して参りました。

まだまだ未熟者ではありますが、弘前大学や青森の発展に貢献できるよう、全力で教育・研究・地域貢献に取り組んで参ります。よろしくお願い致します。

岡部孝裕　理工学研究科　助教

４月より理工学部機械科学科の助教に着任致しました岡部孝裕（おかべたかひろ）と申します。私は昨年度に学位を取得したばかり、青森県に住むことも初めてということで、まだまだ慣れないことが多いですが、弘前大学の教員として活躍していきたいと思っています。これから弘前の魅力にどんどん触れていきたいです。どうぞよろしくお願い致します。

于 涛　理工学研究科　助教

2010年10月に、私は中国側学生として「弘前大学北日本新エネルギー研究所開所記念国際シンポジウム」に参加したことがあります。その時、青森のきれいな自然環境や弘前大学のエネルギー分野への多様な取組みは深い感銘を与えてくれました。そのため、東京大学で博士号取得後、私は弘前大学理工学研究科自然エネルギー学科に着任することにしました。エネルギー専攻出身の私も、自分の専門知識を活かして弘前大学のエネルギー研究活動に貢献できればと思っています。

長井　力　理工学研究科　助教

平成28年４月に理工学研究科に着任しました。専門はメカトロニクス・医療福祉工学です。超高齢化社会によって生じる問題を解決するため、今後ますます人間の生活を助ける技術の開発が期待されています。私は、機械工学の知識を基に人間にとってより使いやすい機械システムの開発と医療福祉分野への応用を目指します。皆さんと共に問題解決を行いながら、教育研究、地域貢献活動ができればと思います。宜しくお願い申し上げます。

本田 明弘　北日本新エネルギー研究所　教授

2016年４月より、北日本新エネルギー研究所に着任しました。出身は東京ですが、その後京都、長崎と西へと移動していましたが、今回は折り返して両親の故郷の東北に住むことになりました。

学生時代から風に親しみ、企業の研究所で大型構造物の耐風設計や風力エネルギーを専門にしてきました。

青森は風・海洋などの自然エネルギー資源が豊富で、日本の研究開発のメッカになれると想いますので、よろしくお願いいたします。

泉 ひかり　食料科学研究所　助教

平成28年４月より青森キャンパスの食料科学研究所に着任いたしました泉ひかりと申します。これまでは、魚を効率よく増やすことを目標に魚類の生殖生理学研究に携わってきました。これからは、魚に限らず、青森県の豊かな水産資源の保全、持続的生産に向けた増養殖技術の開発、低・未利用資源の利活用に関する研究に取り組み、「食」を通した地域振興を目指したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

横内裕一郎　教養教育開発実践センター　助教

平成28年４月１日付で教育推進機構教養教育開発実践センターに着任しました横内裕一郎と申します。専門は言語テスティングで、パフォーマンス評価の研究をしています。教養英語の科目を担当させていただいておりますが、その中でも言語テストの話題を交え、学生の皆さんのやる気を引き出す授業を心がけてまいります。故郷青森で教育・研究に従事できる喜びを噛み締めながら精一杯頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いします。

Ⅵ
けいじばん
コーナー

弘前大学学生ボランティア活動助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を、６月20日（月）50周年記念会館２階特別会議室で行いました。

交付式では、佐藤学長から今年度申請のあった８団体の各出席者１人ひとりに、活動助成費採択書が手渡され、また各団体出席者から各団体の活動内容の紹介がありました。

佐藤学長から、「大変多くの学生が、多様なボランティア活動に参加していることを喜ばしくまた誇らしく思う。現場での活動にあたっては難しいこともあることと予想されるが、積極的に活動を行っていることを讃えたい。ボランティア活動の本質は、自らのための活動であるとの自覚を忘れないでもらいたい。「情けは人のためならず」という故事ことわざがある。これは、人に情けをかけるのは、その人のためになるばかりでなく、やがては巡りめぐって自分に返ってくる、人には親切にせよという教えである。是非そのような考え方で今後も活動を進めてもらいたい。」と学生の今後の活動に対する期待を祈念する言葉が贈られました。

団体名	申請代表者名
児童文化研究部KIDS'	横　関　七　海（教育学部）
僻地教育研究会	五十嵐　美　咲（教育学部）
さくらボランティア	佐　藤　　悠（教育学部）
ひまわりサークル	山　本　幸　生（農学生命科学部）
SaBoTen（サボテン）	溝　江　香乃子（教育学部）
環境サークルわどわ	樋　口　大　紀（農学生命科学部）
teens＆law	田　村　淳　奈（教育学部）
キャリアサポート研究会	竹　内　　楓（人文学部）

交付式に続いて懇談会を行い、各団体出席者から普段からの悩みや大学に応援して欲しいことなどを中心に、忌憚のない意見交換が行われ、今後の学生ボランティア活動支援体制の充実を図るためのヒントを得ることができました。

赤坂理菜さん（教育学部２年）が「2016ミスねぶた」に！

「2016ミスねぶたコンテスト」が、６月18日に青森市「ねぶたの家 ワ・ラッセ」で開催され、本学教育学部２年の赤坂理菜さん（青森市出身）がミスねぶたに選ばれました。

コンテストでは、応募者49人のうち書類選考を通過した10人が決勝審査に進み、赤坂さんは準グランプリにあたる「ミスねぶた」に選出されました。任期は８月から１年間で、祭り本番は元気に跳ねる予定とのことです。

赤坂さんは現在、教育学部学校教育教員養成課程で小学校の教員になるために勉強中で、「ねぶたは小さい頃から大好きでした。ミスねぶたのお姉さんを子どもの頃に見て、ずっと憧れていました。」とのこと。小学校の先生以外にもなりたいものが増えたと語っていました。

編集後記

まずもって、本号に執筆いただいた教職員・学生の皆さんに感謝申し上げます。

本号は、例年「新学期を迎えて」をテーマとして構成しています。

巻頭言で佐藤学長が「読書のすすめ」を説いてらっしゃいます。偶然か、弘大生協さんのページでも「読書の取り組み」を掲載しています。新入生を含め在学生の皆さんは、この３ヶ月で何冊の本を読んでいるのでしょうか。私は、通勤の汽車の中で文庫本１冊を読みきるのが精一杯でした。

新入生含め在学生の皆さんには、たくさんのいろんな本に出会い、自分にはない新しい世界観や知識を得て、今後の生活や将来の仕事に役立ててもらいたいと思います。

本を読む人と読まない人との差は、歳を重ねる毎にきわだち、その差はあらゆる場面での対応の差となってきます。今すぐ附属図書館に行ってみましょう。

本号が出来上がる頃、新入生の大学生活は３ヶ月が経過、自分の夢に向かって走り出していることと思います。各学部長先生や先輩方からの応援メッセージを胸に刻み、これからの大学生活を謳歌してほしいと思います。

tsunek

知ってる？ 弘大生協の読書の取り組み

—2016年、弘大生協は「本を読む」にこだわります—

＝本の販売＝

弘大生協の組合員は、書籍を定価の5%引きで購入できます。電子マネーPicoを使えばさらにポイントが付与。本の購入はSHAREA、FERIO、クローバーで。（一部雑誌はサリジェでも購入できます。）毎月、様々なフェアやセールをおこなっていますので、ぜひお店をのぞいてみてくださいね。

＝「本を体感する」企画＝

年数回ではありますが、作家の足跡を辿りながら作品に触れる「文学散歩」や、作品について自ら紹介する「ビブリオバトル」など、読むだけはなく「体感する」企画を行っています。今年は6月25日（土）に「太宰青春散歩道」を実施しました。

＝読書マラソン＝

SHAREAで行っている「4年間で100冊本を読もう！」がテーマの本のマラソン。エントリーして、自分の読んだ本の「紹介POP」をレジに出すと、ポイントカードにハンコをもらえます。ポイントを貯めれば書籍利用券をGET。さらに自分のPOPがお店の本棚を飾ることも？！

2015年度の新規エントリー69名 / POP 1366枚

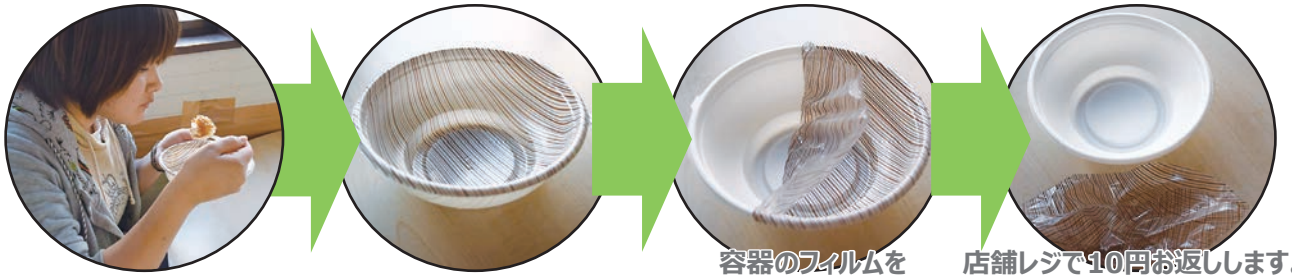
＝今号、この1冊＝

いつの時代も、誰かの「こんなふうになったらいいな」という想いで出来ている。
自分の生き方に「おもしろさ」という希望が湧く一冊です。

2015年の弘大生の1日の平均読書時間は「32.8分※」。少しづつですが増えてきているんです。
まずは、あなたも「本を手にとってみる」から始めてみませんか？（※第51回学生実態調査より）

生協の環境活動 デポジット容器回収

生協の内製弁当はご購入時に10円をお預かりしています。
容器を店舗に持参して頂くと10円をお返しします。



お弁当を食べます。

容器のフィルムを剥がして下さい

店舗レジで10円お返しします。
※募金にすることもできます。

容器は「株式会社ヨコタ東北」の工場でペレットにします。それを利用し新しい容器へと生まれ変わります。
ゴミを減らし資源を大切にする。リサイクルの取り組みにぜひご協力ください。

弘前大学生活協同組合（TEL0172-34-4806）

弘前大学
学園だより

Vol.187　2016年６月発行

国立大学法人 弘前大学「学園だより」
編集委員会

委員長　飯島裕胤（教育委員会）
委　員　加藤惠吉（人文社会科学部）
　　塚本悦雄（教育学部）
　　浅野義哉（医学研究科）
　　千葉　満（保健学研究科）
　　藤﨑和弘（理工学研究科）
　　坂元君年（農学生命科学部）
　　澤田祐子（学生課）
　　粕谷常好（学生課）
印　刷　青森コロニー印刷

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。
弘前大学学務部学生課　e-mail:jm3113@hirosaki-u.ac.jp